

重点目標 16 子どもたちの放課後の育ちの保障 担当：地域教育推進課

近年は、誘拐などにより子どもたちが犯罪等に巻き込まれるなど、放課後の子どもたちが安全に遊べる場所が少なくなっている。また、核家族化の進行などにより、子どもたちが地域で様々な体験を経験する機会が減ってきている。一方、共働き世帯も増加し、子どもたちに放課後の安全安心な居場所の提供と生きる力を育むための体験活動の機会を充実していくことが求められている。

そのため、放課後児童会の適正な運営に努めるとともに、放課後子ども教室の充実に取り組み、放課後子ども総合プランを推進する。

また、市民やボランティア団体、大学等と連携し、子どもたちが様々な体験ができるよう取り組むとともに、より多くの参加を促すため、情報発信の強化にも取り組む。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 放課後児童会の開設時間延長の実施

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生を対象として、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るため、市内 12 ヶ所で放課後児童会を運営する。

また、平成 28 年度から開設時間を延長する。

【事業名：放課後児童会運営事業】

2. 放課後子どもプランの安定した実施

放課後に子どもたちが安全で安心できる居場所として、余裕教室を利用し、地域の方々の協力を得て、放課後子ども教室を実施し、様々な体験活動を提供する。

また、休日の子どもの居場所として、河内長野駅前周辺で駅前子ども教室を実施し、様々な体験活動を提供することで、子どもたちの「生きる力」を育む。

【事業名：放課後子ども教室事業、駅前子ども教室事業】

3. くろまるキッズ制度の普及

市主催事業や地域団体のイベントなどを「くろまるキッズ」認定事業とし、講座やイベントなどの情報を集約し、分かりやすく提供するとともに、小中学生の参加者にポイントを付与する。

また、一定のポイント数を得た応募者全員に証書を授与するなどにより、事業への参加意欲の高揚を図る。

【事業名：くろまるキッズ事業】

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	B
くろまるキッズ制度の参加人数向上が見込まれるため、有効性を B 評価とした。今後においても、周知方法等、十分検討を行い取り組むよう務める。					
平成 28 年度の実施状況及び成果					
☐ 放課後児童会においては、平成 28 年 7 月より、開設時間の延長を実現し、市民のニーズ及び国の運営指針にあった運営を実現した。					

- 児童数が急増する中、「河内長野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」の設置基準を遵守し、待機児童を出さないよう、クラスの増設等の整備を実施した。
- 「放課後子ども教室」については、放課後の子どもたちの安全・安心な活動場所や居場所づくりのため、ボランティアなどの協力を得て運営を行い、地域社会全体で子どもの豊かな成長を育んだ。
- 現在市内で実施されている様々な講座やイベントの情報を集約してわかりやすく提供し、それらにポイントシールがもらえる「くろまるキッズ」の運用を継続した。

各事業の実績等

1. 放課後児童会運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生（１年生から６年生）に対し、保護者に代わって適切な遊び及び生活の場を提供し、その健全な育成を図ることを目的に市内 12 ヶ所で放課後児童会を運営。

(2) 平成 28 年度の実績

平成 28 年度は、児童数は大幅に増加し、計 31 クラス体制となったが、待機児童を出すことなく運営を行った。

７月からは、放課後児童会の平日夕方の開所時間の 1 時間繰り下げと、土曜日、夏休み期間等の開始時間の 1 時間の前倒しを行うことにより、安全で安心な児童の居場所の確保の充実に努めた。

児童会の運営を担う放課後児童会支援員については、非常勤嘱託員等を配置し、年間実施計画に基づく研修を定期的実施（月 1 回程度）することで資質の向上に努めた。

また、障がいの程度に応じてアルバイト職員を児童会に加配し、障がい児に対するきめ細やかな支援を行った。

<児童会一覧>

児童会名	クラス数	児童数（内、土曜登録者数）
長野放課後児童会	4	148名（56名）
三日市放課後児童会	4	149名（26名）
加賀田放課後児童会	2	64名（17名）
千代田放課後児童会	3	118名（34名）
高向放課後児童会	2	39名（22名）
川上放課後児童会	2	61名（15名）
小山田放課後児童会	3	94名（31名）
南花台放課後児童会	2	48名（17名）
天野放課後児童会	1	35名（10名）
美加の台放課後児童会	3	91名（23名）
楠放課後児童会	3	97名（39名）
石仏放課後児童会	2	58名（16名）
合 計	31	1,002名（306名）

（平成 28 年 5 月 1 日現在）

2. 放課後子ども教室事業【継続事業】

(1) 事業の目的

放課後の子どもたちに安全・安心な活動場所を設け、ボランティアの方など地域社会全体で子どもの豊かな成長を育む。

(2) 平成 28 年度の実績

放課後主に 5 時間目終了後、子どもたちに安全・安心な活動場所を設け、地域の方々の協力を得ながら工作や読み聞かせ、レクリエーション、手話教室等、様々な体験の機会を提供する「放課後子ども教室」を市内全 13 小学校で開催した。

また、放課後子ども教室への参加は、自由選択型の事前申込制で、参加費用は無料。

実施場所	実施曜日	実施回数	対象学年	延べ参加者数（平均参加者数）
千代田小学校	隔週 金曜日	8 回	2 年生	273 名（34 名）
長野小学校	隔週 木曜日	12 回	2 年生	370 名（30 名）
小山田小学校	隔週 火曜日	12 回	2・3 年生	738 名（61 名）
天野小学校	隔週 金曜日	7 回	1・2 年生	216 名（30 名）
高向小学校	隔週 金曜日	10 回	2・3 年生	205 名（20 名）
三日市小学校	隔週 木曜日	10 回	2 年生	256 名（25 名）
加賀田小学校	隔週 木曜日	9 回	2 年生	237 名（26 名）
天見小学校	毎週 月・金曜日	43 回	1～3 年生	916 名（21 名）
楠小学校	隔週 金曜日	11 回	2 年生	498 名（45 名）
石仏小学校	隔週 木曜日	9 回	2 年生	165 名（18 名）
川上小学校	隔週 火曜日	12 回	2 年生	359 名（29 名）
美加の台小学校	隔週 木曜日	9 回	2 年生	376 名（41 名）
南花台小学校	隔週 木曜日	10 回	2 年生	236 名（23 名）
合 計		162 回		4,845 名（31 名）

3. 駅前子ども教室事業【継続事業】

(1) 事業の目的

河内長野駅前という実際の街の中を活動フィールドとして、年 3 回日曜日など休日に、ボランティアの方の協力を得て、街の中ならではの体験活動を提供し、子どもたちの主体性や創造力、コミュニケーション力といった「生きる力」を育むことを目的として実施した。

(2) 平成 28 年度の実績

学生等、若い世代とともに子どもたちの生きる力を育むことにも取り組み、大学の授業における実践の場として駅前子ども教室を利用してもらい、新しい体験型の教室を開催した。

実施日 平成 28 年 7 月 17 日（日）、11 月 20 日（日）、12 月 23 日（金・祝）

実施時間 午前 10 時～午後 4 時

実施場所 子ども交流ホール、にぎわいプラ座、ノバティホール、府営長野公園等

講座数 22 講座 参加者：563 名 参加ボランティア：67 名

講座内容 駅前貯金箱つり大会！（大阪大谷大学）、ハンドベルで体験♪クリスマスソング（大阪千代田短期大学）、サンタのまちをつくろう（大阪芸術大学ボランティアサークル future）、水てっぼうで長野公園に虹をかけよう！（アートクラブ子どものちから）、こうさくの広場（TOYクラブ）、楽しく Dance！（長野総合スポーツクラブ）、手作りミニクリスマスツリー（ABCクラフト）など

4. くろまるキッズ事業【継続事業】

(1) 事業の目的

現在市内で実施されている様々な講座やイベントの情報を集約してわかりやすく提供するとともに、小中学生の地域行事への参加を促進することで、小中学生が地域の大人とのつながりを深め、地域全体で子どもたちを育むことができる仕組みづくりを目的とする。

(2) 平成 28 年度の実績

くろまるキッズポイント制度

市や関係団体、民間が実施している講座、教室、イベント等（以下「講座等」という。）を「認定講座」として登録し、小中学生が講座等に参加するとポイントシールがもらえる仕組みにより、講座等への参加をポイントで表し、それを表彰することで、参加意欲の高揚を図ることを目的に実施。

このことにより、参加する機会がなかった講座等にも積極的に子どもたちが参加するようになり、地域等とのつながりを深めることができたほか、様々な講座を受講することで、市内で行われている活動や体験への参加意欲を高めるきっかけづくりを行った。

今後の課題及び次年度以降の取組みについて

- ☐ 放課後児童会への高まるニーズに対応するため、施設整備及び放課後児童会支援員の育成に務める。
- ☐ 休会日の短縮（1月4日・5日の開設）を行い、社会体制及び保護者のニーズへ対応する。厚生労働省令に基づき制定した放課後児童会設置基準条例の基準を遵守し適正な運営を行う。待機児童を従来通り出さないよう運営を実施する。
- ☐ 放課後子ども教室において、子どもたちへの魅力ある教室実施、運営を行っていく一方で、委託団体や地域ボランティア・団体の活動機会増加促進を図る。
- ☐ くろまるキッズ制度について、ホームページの充実、情報発信機能の強化を図り、参加を促進させる。

重点目標 17 家庭の教育力の向上

担当：地域教育推進課

近年、家庭の教育力低下が問題視されている。そこで、家庭教育講座などの各種学習活動や学校、子ども・子育て総合センターとの連携による事業を実施する。また、地域ぐるみの子育てをサポートする市民主体の活動も始まっているが、更なる地域ぐるみでの子育て支援が課題となっている。

そのため、大阪府教育委員会が作成した「親(おや)学習(がくしゅう)(※)プログラム」に基づく本市独自の取組みである「親楽習(おやがくしゅう)」事業の充実を図る。まず、保護者を対象とした家庭の教育力向上に向けた学習機会の提供をはじめ、祖父母世代や地域住民を対象とした学習機会の提供に努める。一方、将来の親世代としての小中高校生に対する親学習を充実するとともに、地域ぐるみの市民主体による家庭の教育力向上のための取組みとして「河内長野親力(おやりよく)(※)推進協議会」の活動支援など、市民・地域とともに、家庭の教育力向上に努める。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 家庭教育講座や親(おや)学習(がくしゅう)などの学習機会の提供

各公民館において、家庭教育講座を開催するとともに、各小中学校園のPTAと共催する家庭教育講座、小学校と連携し、新小学1年生の保護者を対象とした子育て講座を開催する。

また、保護者や小中学生を対象とした「親楽習(おやがくしゅう)」講座を充実させ、親力(おやりよく)アップを図る。

【事業名：家庭教育・子育て支援事業】

2. 市民主体による「親力(おやりよく)推進協議会」の活動の支援

平成 26 年度に社会教育委員を中心として発足した「親力(おやりよく)推進協議会」の活動の推進・充実を支援し、市民主体による親力(おやりよく)のアップを図る。

【事業名：家庭教育支援推進事業】

3. 親学習リーダーの養成

「親楽習(おやがくしゅう)」事業を推進、充実させるため、親楽習の進行役である「親楽習(おやがくしゅう)リーダー」を養成するための講座を開催する。

【事業名：親学習リーダー養成事業】

※ 親(おや)学習(がくしゅう)：子どもの成長とともに親自身がまなび、育っていくこと

親力(おやりよく)：子どもを育て、包み、伸ばす親の総合力

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度の実施状況及び成果					
☐ 公民館や市民交流センターで、家庭教育支援事業や親学習についての講座など、家庭教育に関する学習機会の提供を行った。 また、新一年生の保護者を対象に、各小中学校で子育て学習講座を開催した。					
☐ 小中学校において、将来親となる準備期の児童・生徒を対象に親学習を実施した。					

- ☐ 家庭、地域、学校が連携しながら、家庭の教育力向上、地域の教育力の向上をめざしていくための協議及び活動等を行った。
- ☐ P T Aとの協働により、各小中学校にて家庭教育講座を実施した。
- ☐ 親学習を推進するため、推進役となる人材を育成する「親学習リーダー養成講座」を実施した。

各事業の実績等

1. 家庭教育・子育て支援事業【継続事業】

(1) 事業の目的

家庭での教育力の向上のため、地域での子育てを支援する。

(2) 平成 28 年度の実績

① P T Aとの協働による家庭教育講座

8 小中学校園において実施 参加者数 3, 4 3 5 名

② 新小学 1 年生の保護者を対象とした「子育て学習」事業

8 小学校において実施 参加者数 2 8 2 名

③ 親学習事業

・小中学生に対する親学習講座の実施。

小学校 1 1 回 中学校 6 回

・その他、市内単位 P T Aや他市の P T A連絡協議会等を対象に計 9 回実施。

2. 家庭教育支援推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

社会教育委員会議から提案された「親学・家庭教育支援について～今後取り組んでいくべきこと～」を実施していく。

(2) 平成 28 年度の実績

平成24 年度に社会教育委員会議から提案された「家庭教育支援の今後の方策」の実現にむけて、「親力推進協議会」を発足させ、市民レベルで家庭教育支援に取り組み、家庭や地域の教育力の向上を目指すため、その取り組みを広く市民に周知等行った。

3. 親学習リーダー養成事業【継続事業】

(1) 事業の目的

対話や交流をとおして親のあり方をまなぶ大阪府が作成した教材「『親』をまなぶ・『親』をつたえる」を活用した学習機会の提供を促進するため、地域での学習活動の推進役となる人材を養成するために実施した。

(2) 平成 28 年度の実績

開催日：平成 29 年 1 月 30 日、2 月 6 ・ 13 ・ 20 日

場 所：羽曳野市役所別館、富田林市福祉青少年センター

受講者：計 5 名

今後の課題及び次年度以降の取組みについて

- ☐ 子どもたちが親子の関係や親になることについて考える機会を持てるよう、引き続き各学校で親学習講座を実施する。
- ☐ 家庭教育を支援するために、保護者だけではなく、家庭・地域・学校が連携し、「地域の子どもは地域で育てる」という意識を共有できるような取組みを進める。
- ☐ 「親力推進協議会」は、従来より取り組んでいる広報紙の定期的な発行に加え、今後、新たな活動内容を企画するなど、家庭や地域の教育力の向上を図る。
- ☐ 「親学習リーダー」について、ファシリテーション(※)能力の向上や子育ての現状理解等、今後のスキルアップが必要であることから、引き続き「親学習リーダー養成講座」を実施し、親学習をさらに進めていくとともに、活動中の親学習リーダーのスキルアップの機会を提供する。

※ ファシリテーション： 発言や参加を促し、話しの流れを整理する事

重点目標 18 地域総ぐるみで子どもを守り育む環境づくり 地域教育推進課

近年、市民の価値観やライフスタイルの多様化、核家族化などの急激な社会変化によって、学校が様々な課題を抱えているとともに、家庭や地域の教育力が低下し、学校に過剰な役割が求められている。このような状況のなかで、これからの教育は、学校だけが役割と責任を負うのではなく、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力のもとで進めていくことが不可欠となっている。

そのため、「開かれた学校」として、学校教育と社会教育（家庭教育を含む）とが相互補完的に協力し合う関係づくりの学社連携、学校教育と社会教育が部分的に重なり合う関係づくりの学社融合の推進・充実に努める。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 学社連携・融合事業の充実

学校教育において、社会教育と連携した教育活動が推進できるよう、各種の教育課程に事業を組み入れ指導助言を行い、社会教育活動を展開する団体等と学校とのコーディネートを行っていく。

【事業名：学校支援地域本部事業】

2. 学校支援地域本部事業の充実

学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てることを目的とした、国が推進する学校支援地域本部事業において、学校を支援する活動をさらに充実させる。

【事業名：学校支援地域本部事業】

3. 子どもの体験活動機会の充実

各地域で、地域住民が中心となって、学校の週休日などに、子どもの様々な体験活動を通して、子どもたちが地域の大人から技術や知識を得るとともに、大人から人生の先輩としての考え方、生活習慣などを学ぶ機会を提供していく。

【事業名：土曜学習事業】

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度の取組み及び成果					
☐ 楽習室の円滑な実施のため、実施主体である「楽習室実行委員会」への支援を行い、計 6 5 回の楽習室を行った。					
☐ 地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域住民が学校支援ボランティアとして活動するための体制を整備した。					
各事業の実績等					
1. 学校支援地域本部事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					
学校教育と社会教育（家庭教育を含む）とが相互補完的に協力し合う関係づくりの学社連携、学校教育と社会教育が部分的に重なり合う関係づくりの学社融合の推進・充実を図					

る。

(2) 平成 28 年度の実績

地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域住民が学校支援ボランティアとして活動するための体制を整備した。各小学校に学校支援地域本部をはじめとする地域住民の交流・活動の拠点づくりを整備することで、「あいさつ運動」「清掃活動」等、学校と地域の連携活動の打ち合わせや、学校支援コーディネーターが学校と地域の窓口としての活動を行う上でより動きやすい環境づくりができた。

また、地域の方々の「読みきかせ」や「昔遊び」等の体験交流活動を行う場として活用する等、「見守り隊」や「学校支援ボランティア」等も含め、地域の方々が様々な活動を通じて学校を支援するための体制が構築された。

2. 土曜学習事業【継続事業】

(1) 事業の目的

学校と家庭・地域社会が連携を深め、互いの教育力を活用しながら、その向上を図っていくため、大人と子どもがともに学ぶ場を提供するための環境づくりを進める。

(2) 平成 28 年度の実績

土曜日を中心に学校の教室や体育館を使って、子どもと大人が共に楽しく学ぶ場を提供する楽習室を円滑に実施するための環境づくりや、実施主体である「楽習室実行委員会」への支援を行うことにより、「教育コミュニティ」づくりを推進した。

平成 28 年度楽習室実施状況

中学校区	活 動 等	開 催 回 数 (回)	子ども (人)	大人 (人)	スタッフ (人)	合計 (人)
長野	「ちりめんモンスターをさがせ!」 ほか 9 活動	10	1,441	217	324	1,982
西	「みたらし団子作り」 ほか 7 活動	8	300	52	82	434
東	「吹奏楽の楽器を楽しもう」 ほか 8 活動	9	295	32	107	434
千代田	「サツマイモの苗植え」 ほか 7 活動	8	303	104	115	522
加賀田	「ゲームとお昼ごはん作り」 ほか 9 活動	10	627	179	104	910
南花台	「電子レンジで作るイチゴ大福」 ほか 9 活動	10	545	69	331	945
美加の台	「おはなしポケット」 ほか 9 活動	10	200	74	102	376
合 計		65	3,711	727	1,165	5,603

今後の課題及び次年度以降の取組みについて
☐ 学校教育と社会教育（家庭・地域教育）の双方のニーズに合った事業をコーディネートし、また、学校を支援する人材の発掘等を行う。 ☐ 学校・地域・家庭が連携を深め、互いの教育力を活用しながら、その向上を図るため、大人と子どもがともに学ぶ環境づくりを推進する。

重点目標 19 子育て支援事業の充実

担当：子ども子育て課

家庭や地域における子育て機能の低下や子育て中の親の孤独感や不安感の増大といった問題に対して、地域の身近なところできめ細やかな相談体制の充実や、親と子の居場所づくり、地域の子育て環境づくりなど、様々な取り組みが必要であり、行政と地域社会全体で支援ができるよう体制強化を図ることが必要となっている。

地域において子育て親子の交流等を促進し、地域の子育て支援機能の充実を図り、子育ての不安感等を緩和し、近年の重要課題である虐待の未然防止、早期発見に大きな役割を果たす。

今後は、妊娠・出産期からの切れ目のない支援と、配慮が必要な子どもと家庭への支援をさらに充実させることにより、子どもにとって健やかな育ちを支援するためのよりよい家庭環境を築くこと、そして、地域や子育てを支援する団体等と密接に連携し、協力して子育てを支援する環境作りを進める。

【平成 28 年度の主な取組み】

子ども・子育て総合センター「あいっく」事業の充実

1. 子育て利用者支援事業の充実

個別の子育て家庭のニーズを把握し、適切な施設・事業等を円滑に利用できるように支援する「利用者支援」と利用者支援機能を果たすために、日常的に地域の様々な子育て支援関係者とネットワークを構築し、不足している社会資源の開発をする「地域連携」を実施し、一人一人の子どもが健やかに成長することが出来る地域社会の実現を進める。

【事業名：子育て利用者支援事業】

2. 地域子育て支援者の育成と関係機関との連携の充実・拡充

市内小学校、中学校、高等学校との連携事業を実施します。さらに、学生ボランティアの育成や活動を推進し、企業や団体と連携していく。ファミリー・サポート・センター事業の普及促進に努める。

【事業名：地域子育て支援事業】

3. 育児講座による親支援の充実

子育ての負担感を軽減し、虐待予防、孤立した子育てを防ぐために家から出てくるきっかけづくりとして、親支援プログラム「BP」「NP」「CSP」(※)を実施する。

【事業名：地域子育て支援事業】

4. 障がいのある子どもへの支援の充実

保育園、幼稚園、認定こども園のニーズを把握し、各園の訪問を実施、個別保育計画立案やサポートブックは一との活用を啓発する中で、子どもの発達状況の見立てや特性理解のための着眼点、具体的な保育方法、評価の方法、関係機関との連携、保護者への支援等を助言提案し、発達支援や保護者支援の更なる充実を図る。

【事業名：幼児健全発達支援事業】

※BP：『親子の絆作りプログラム“赤ちゃんがきた！”』

初めての赤ちゃんを育てている母親が参加者同士で話し合い、育児の知識やスキル・親の

役割などを一緒に学び、親子のつながりを深めるプログラム

※NP：『完璧な親なんていない “ノーバディーズ・パーフェクト”』

就学前の子どもの保護者それぞれが抱えている悩みや関心事をグループで話し合い、“自分
にあった子育て”を見つけ、自信を持って子育てができるように学ぶプログラム

※CSP：『叱らない子育て “コモンセンスペアレンティング”』

子どもとのコミュニケーションの取り方やしつけの方法を具体的にわかりやすく伝え、
暴力や暴言を使わずに子どもを育てる技術を学ぶプログラム

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度の取り組み及び成果					
□ 子ども・子育て総合センターあいつくを拠点として、地域とのつながりを大切にしながら、個別の子育て家庭のニーズ把握を行い、きめ細やかな寄り添う支援を通して虐待を未然に防ぎ、家庭の教育力を高める取り組みを行った。 □ 市内小中学校、高等学校との連携では、「いのちはぐくむ交流授業」を実施し、生徒と乳幼児やその保護者とのふれあいを通して命の重みや他者を思いやる気持ちを実感できる機会を提供した。 また、学生ボランティアをはじめとするボランティア活動や企業との連携による育児講座の開催等により、あいつくが地域支援者の活動の場となる役割を果たした。 □ 配慮の必要な親子に対しては、「子育て」できる環境を整えるため、就園（学）先と確かな情報を共有しながらサポートブックは一と活用の啓発を行い、地域の社会資源とつながる「親育ち」を促進し、「家庭の力」を付けていくために継続した支援を実施した。					
各事業の実績等					
1. 子育て利用者支援事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					
子育て利用者支援事業の充実を目的とする。					
(2) 平成 28 年度の実績					
子育て利用者支援事業の充実【					
・子育て利用者支援対象家庭数 62 件 相談総数 280 件					
・地域資源との情報交換等 4 回					
(C SW会議、観心寺保育園育児支援推進会議、地域支援者交流会、ファミサポ講習会)					
2. 地域子育て支援事業【継続事業】					
(1) 事業の目的					

地域子育て支援者の育成と関係機関との連携の充実・拡充及び育児講座による親支援の充実を目的とする。

(2) 平成 28 年度の実績

① 地域子育て支援者の育成と関係機関との連携の充実・拡充

- ・いのちはぐくむ交流授業 開催校 7 校（小学校 3 校、中学校 3 校、高等学校 1 校）
参加者数（大人 169 人、子ども 191 人）
- ・学生ボランティア 登録者数 33 名（述べ活動回数 22 日 55 名）
- ・一般ボランティア登録人数 46 人
- ・ボランティア活動内容 年間活動回数 62 回、述べ活動人数 252 人

企業や団体との連携講座の開催数と参加者数

連携先・講師等	講座名	日程	参加者数(人)		
			大人	子ども	合計
カ イ ゲン フ ェ ー マ (株)	母と子の風邪予防講座	2 月 27 日	14	17	31
花の文化園	芝生の広場であそぼう 双子ママの交流会	11 月 17 日	7	14	21
社会福祉協議会 整理収納セミナー	①子育て中のママも楽しくお片付け	11 月 25 日	18	10	28
	②実家のお片付けが気になる方へ	12 月 6 日	9	6	15
図書館 読みメン応援講座	絵本のひろば 絵本作家によるワークショップ 読みメン講座	10 月 30 日	43	55	98
		11 月 6 日	21	26	47
		12 月 4 日	31	31	62
		12 月 18 日	29	40	69
危機管理課 地域子育て支援事業 にて啓発	烏帽子台自治会館	9 月 15 日	12	15	27
	鳴尾自治会館	9 月 27 日	10	10	20
	中片添自治会館	9 月 23 日	12	14	26
危機管理と公益財団 法人公園緑化協会	おでかけわくわく広場 「寺が池公園」防災訓練（地震）	4 月 22 日	15	16	31
	子連れおかんの 防災ピクニック 寺が池公園	3 月 13 日	6	7	13
消防署	みんなであそぼう 消防署見学	10 月 5 日	39	52	91
	育児講座「こんな時どうする？」～女性救命士と一緒に	8 月 22 日	24	22	46

	学ぶ、ママができる応急手当～	3月6日	13	3	16
人権推進課	「アンガーマネージメント」	10月23日	23	12	35
		10月30日	23	12	35
	岸本元気先生のコミュニケーション講座	1月22日	43	2	45
	育児講座「男らしさに縛られない講座」	2月22日	19	2	21
	「親と子の心のパイプはつながっていますか？」	3月20日	61	27	88

② 育児講座による親支援の充実

- ・NP（ノーバディーズパーフェクトプログラム） 年1回（1クール8回 11家庭）
（延べ参加者数 大人 78人 子ども 81人）
- ・BP（親子の絆づくりプログラム） 年7回（1クール4回 参加家庭数 79家庭）
（延べ参加者数 大人 274人 子ども 276人）
- ・CSP（コモンセンスペアレンティング）年1回実施（1クール2回 11家庭）
（延べ参加者 大人 22人 子ども 18人）
- ・ペアレントトレーニング 年1回実施（1クール 5回 5家庭）
（延べ参加者数 大人 25人 子ども 10人）

3. 幼児健全発達支援事業【継続事業】

(1) 事業の目的

障がいのある子どもへの支援の充実を目的とする。

(2) 平成28年度の実績

障がいのある子どもへの支援の充実

- ・園訪問相談支援実施回数 62回
- ・は一との会実績 保護者向け 6回（参加者数 47名）
実践報告会 1回（参加者数 69名）
- ・支援者研修会 3回（参加者数 153名）

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

□ 今後は、妊娠・出産期から切れ目のない支援を配慮が必要な子どもと家庭への支援の充実のために市内の子育てにかかわる機関の担当者が顔の見える連携を行い、スムーズな利用支援へとつなげるシステムづくりを行うことが課題である。そのため、子ども・子育て総合センターあいつくが拠点となり、取りまとめの役割を果たしていく。

重点目標 20 安全・安心な学校施設整備の維持・充実

担当：教育総務課

学校施設は、児童生徒が一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、豊かな人間性を育むための教育環境として重要な役割を果たしている。また、災害時には避難所になるとともに、今後は余裕教室などを地域コミュニティや地域の人々の学びの場としての活用なども期待されることから検討を進めていく予定であるが、学校施設のほとんどが、建築後 30 年を超え、老朽化もすすんできている。

そのため、児童生徒をはじめ、学校を利用するすべての人々にとって、学校が安全で安心な施設として機能するように、耐震対策や長寿命化および危機管理の充実等の学校施設の維持・充実に取り組む。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 学校施設の非構造部材の耐震化の推進

学校施設の非構造部材(窓ガラス、照明器具等)については、地震による飛散・落下等を防止し、児童生徒等の安全を確保するため、平成 27 年度より、全小中学校施設の非構造部材の耐震対策工事を計画的に進めている。今年度については、小学校 9 校(千代田小、長野小、小山田小、天野小、高向小、三日市小、加賀田小、天見小、楠小)の体育館および校舎の耐震対策工事を実施する。

【事業名：小学校大規模改造事業】

2. 学校施設のトイレ等の機能別整備の推進

学校建設時に設置され、老朽化が進む学校のトイレについて、機能の改善と環境の向上をめざし、計画的にトイレの洋式化を実施する。今年度については、南花台中学校、石仏小学校のトイレ整備工事を実施する。

【事業名：小学校施設設備改善事業、中学校施設設備改善事業】

3. 小学校校門の安全管理の推進

児童の登下校の時間帯に合わせて、全小学校の校門に学校環境管理員を配置し、学校への不審者等の進入の抑制に努める。

また、学校環境管理員不在時には、校門に設置したカメラ付きインターホン及び電子錠により、職員が来校者の確認を行い、不審者の侵入を抑制する。

【事業名：学校運営管理事業(小)】

平成 28 年度の重点目標評価

妥当性	A	効率性	A	有効性	B
-----	---	-----	---	-----	---

学校施設のトイレ整備工事については、国庫交付金事業として予算を要望しておりましたが、平成 28 年度の当初予算で不採択となり、事業が見送りとなりました。その後、国の補正予算にて追加で採択がされたため、平成 29 年度に繰越して事業を実施します。

平成 28 年度の取り組み及び成果

- 非常災害時には地域住民の避難所としての役割も果たすことから、学校施設の非構造部材(窓ガラスの飛散防止や照明器具の落下防止など)についても、計画的な耐震対策を進めるため、平成 28 年度は、小学校 9 校(千代田小学校、長野小学校、小山田小学校、天野小学校、高向小学校、三日市小学校、加賀田小学校、天見小学校、楠小学校)の校舎及び屋内運動場について、耐震対策工事を実施した。

各事業の実績等

1. 小学校大規模改造事業【継続事業】

(1) 事業の目的

経年により通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改装等の大規模改造を促進することにより、教育環境の改善を図り、学校教育の円滑な実施に資するとともにあわせて建物の耐久性を図ることを目的とする。

平成 28 年度は対象となる小学校施設の屋内運動場及び校舎の一部において非構造部材の耐震対策工事を実施し、教育環境の改善を図る。

(2) 平成 28 年度の実績

① 小中学校大規模改造工事（非構造部材耐震対策）

平成 28 年度は下記のとおり非構造部材耐震対策工事を実施した。

工 事 名	工事請負費	工事契約日 工事着手日 工事竣工日	監理委託料	備 考
市立小山田小学校外 4 校 非構造部材耐震対策工事	34,785,720 円	平成 28 年 6 月 9 日 平成 28 年 6 月 10 日 平成 28 年 9 月 30 日	-	小山田小学校 千代田小学校 長野小学校 三日市小学校 楠小学校
市立加賀田小学校外 3 校 非構造部材耐震対策工事	30,447,360 円	平成 28 年 6 月 9 日 平成 28 年 6 月 10 日 平成 28 年 9 月 30 日	-	加賀田小学校 天野小学校 高向小学校 天見小学校

2. 小学校、中学校施設設備改善事業【継続事業】

(1) 事業の目的

経年により通常発生する学校建物の損耗、機能低下に対する復旧措置及び建物の用途変更に伴う改装等で施設の質的整備を促進することにより、教育環境の改善を図り、学校教育の円滑な実施に資するとともにあわせて建物の耐久性の確保を図ることを目的とする。

平成 28 年度は楠小学校、美加の台小学校、加賀田中学校のトイレ整備工事の設計業務を実施する。

(2) 平成 28 年度の実績

① 小中学校設計業務委託

平成 28 年度は下記のとおり、トイレ整備工事の設計業務を実施した。

業 務 名	契約金額	業務契約日	業務着手日 業務完了日	備 考
市立美加の台小学校外 2 校 トイレ整備工事設計業務	3,886,920 円	平成 28 年 8 月 5 日	平成 28 年 8 月 8 日 平成 29 年 4 月 28 日	美加の台小学校 楠小学校 加賀田中学校

3. 学校運営管理事業【継続事業】

(1) 事業の目的

全市立小学校の児童の安全を確保し、安全安心な学校環境とするため、学校環境管理員を登下校時の小学校校門に配置するとともに、カメラ、インターホンと電気錠を組み合わせ、学校の安全管理を推進する。

(2) 平成 28 年度の実績

河内長野市シルバー人材センター、長野総合スポーツクラブへ委託する学校環境管理員を登下校時の全市立小学校校門に配置し、各校における児童の安全確保に努めた。

委託料 8,806,850 円

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 学校施設の非構造部材の耐震対策については、平成 29 年度に、中学校 7 校（長野中学校、東中学校、千代田中学校、西中学校、加賀田中学校、南花台中学校、美加の台中学校）について耐震対策工事の実施をめざす。
- ☐ 学校施設の施設設備改善工事については、平成 29 年度に、小山田小学校、楠小学校、石仏小学校、美加の台小学校、南花台中学校、加賀田中学校について学校施設の老朽化に対する整備やトイレの洋式化を実施し、教育環境の改善等を図る。また平成 30 年度に整備対象となる三日市小学校、千代田小学校、川上小学校、美加の台中学校について、学校施設の老朽化に対する整備やトイレ整備工事の設計を行う。
- ☐ 引き続き、全小学校の校門に環境管理員を配置し、学校への不審者等の進入の抑制に努め、環境管理員不在時には、校門に設置したカメラ付きインターホン及び電子錠により、職員が来校者の確認を行い、不審者の侵入を抑制する。

重点目標 21 学校教育を支える教育環境の維持・充実

担当：教育総務課

近年の児童生徒を取り巻く社会環境は大きく変化し、児童生徒一人ひとりが、その変化に対応し、21世紀の情報化社会を生き抜く必要な知識や能力を身に着けることが必要である。

そのため、情報化社会に対応する ICT(※)機器や教育委員会と全小中学校を繋ぐ教育情報ネットワーク、学校図書館システムの安定的な運用などを図り、教育内容の多様化にも対応できる質の高い教育環境の維持・充実に取り組む。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 教育情報ネットワークシステムの運営管理

市教育委員会と市立小中学校 20 校を結ぶ教育情報ネットワークシステムの安定的な運用管理を行う。

また平成 21 年度導入 ICT 機器の更新（3 カ年計画の 1 期目）、中学校パソコン教室用パソコンの更新を行う。

【事業名：教育情報化推進事業（小）、教育情報化推進事業（中）】

2. 学校図書館の充実

国語力向上の基礎となる読書の重要性をかんがみ、児童生徒の自主的な読書活動の推進のため、各学校の選書に基づき図書を購入し、文部科学省が定める学校図書標準の達成をめざす。

【事業名：小学校図書整備事業、中学校図書整備事業】

3. 学校図書館蔵書管理システムによる蔵書管理

学校図書館の蔵書の効率的・効果的な運用と、児童生徒の読書環境の整備のため、各小中学校の学校図書館蔵書管理システムの安定的な運用管理を行う。

【事業名：小学校図書整備事業、中学校図書整備事業】

※ ICT：Information and Communication Technology(情報通信技術)の略

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度に取り組み及び成果					
☐ 各小中学校の ICT 機器の効果的な活用を図るため整備した、教育情報ネットワークの安定的な運用を行った。 また平成 21 年度導入 ICT 機器の更新計画に基づき、第 1 期更新（小学校 6 校）を行った。					
☐ 児童・生徒の自主的な読書活動を推進し、教育活動での利用に役立てるため、国の設定した「学校図書館図書標準」を目標に、各学校の希望に基づき図書の整備を行い、学校図書館の充実を図った。					

各事業の実績等

1. 教育情報化推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

教育情報ネットワークを活用した学校間での情報共有を進め、教育活動の更なる推進を目指し、小中学校 I C T 環境の適切な保守・運用管理を実施する。

(2) 平成 28 年度の実績

① 新たに更新を実施した機器

(i) 平成 21 年度導入 ICT 機器更新計画 第 1 期

平成 21 年度に導入した ICT 機器の更新計画（3 ヶ年：平成 28 年度～平成 30 年度）に基づき、第 1 期対象校（小学校 6 校）へタブレット併用型ノートパソコン(※)を賃貸借により整備した。

内 容	小学校
タブレット併用型ノートパソコン等賃借料 ※ パソコン台数：99 台	4,788,882 円

(ii) 中学校パソコン教室用パソコン等賃貸借

各校のパソコン教室用ノート型パソコン及び、教室で活用する生徒用タブレットパソコンを賃貸借にて整備した。

内 容	中学校
パソコン教室用パソコン等賃借料 ※ パソコン台数：364 台	752,764 円

② 継続利用した機器

(i) 河内長野市教育情報ネットワークシステム

学校間ネットワーク及びセンターサーバの機器の賃借及び保守管理の委託を行った。

内 容	小学校	中学校
河内長野市教育情報ネットワークシステム機器賃借料	4,129,776 円	2,064,888 円
河内長野市教育情報ネットワークシステム保守委託料	941,760 円	470,880 円

(ii) 小学校パソコン教室用パソコン等賃貸借

各校のパソコン教室に、デスクトップ型パソコン及び周辺機器を賃貸借にて整備した。

内 容	小学校
パソコン教室用パソコン等賃借料 ※ パソコン台数：588 台	16,997,904 円

(iii) 校務用パソコン賃貸借

各小中学校に校務用パソコン等を、賃貸借により整備した。

内 容	小学校	中学校
校務用パソコン賃借料 ※ パソコン台数：小学校 237 台、中学校 35 台	5,002,344 円	572,988 円
事務用パソコン賃借料 ※ パソコン台数：小学校 15 台、中学校 9 台	497,340 円	298,404 円

(iv) 校務支援システム賃貸借

各小中学校へ校務支援システムを、賃貸借により整備した。

内 容	小学校	中学校																																									
校務支援システム賃借料	871,200 円	435,600 円																																									
※ 市内教職員における学校間でのコミュニケーション活性化等を目的にグループウェアシステムを導入。																																											
※ タブレット併用型ノートパソコン：キーボード部分が着脱可能で、タブレットパソコン、ノートパソコンと使い分けができるパソコン																																											
2. 小学校、中学校図書整備事業【継続事業】																																											
(1) 事業の目的 計画的な図書の購入により、小中学校図書館を充実させ、子どもの読書活動の推進を図る。 また、学校図書館蔵書管理システムの活用により、子どもの読書活動推進環境の充実に努める。																																											
(2) 平成 28 年度の実績 ① 市立小中学校図書館図書整備状況 <table> <tr> <th>項 目</th><th>小学校</th><th>中学校</th></tr> <tr> <td>平成 28 年度整備冊数</td><td>3,353 冊</td><td>4,467 冊</td></tr> <tr> <td>平成 28 年度整備額</td><td>4,498,988 円</td><td>6,307,589 円</td></tr> <tr> <td>平成 28 年度市立小中学校蔵書数</td><td>129,312 冊</td><td>81,838 冊</td></tr> <tr> <td rowspan="14">学校図書館図書標準達成率</td><td>110.18% (基準冊数 117,360 冊)</td><td>103.44% (基準冊数 79,120 冊)</td></tr> <tr> <td>千代田小 111.60%</td><td>長野中 97.50%</td></tr> <tr> <td>長野小 105.80%</td><td>東中 94.80%</td></tr> <tr> <td>小山田小 109.70%</td><td>千代田中 100.60%</td></tr> <tr> <td>天野小 114.80%</td><td>西中 81.30%</td></tr> <tr> <td>高向小 131.10%</td><td>加賀田中 96.80%</td></tr> <tr> <td>三日市小 99.40%</td><td>南花台中 131.50%</td></tr> <tr> <td>加賀田小 106.10%</td><td>美加の台中 138.30%</td></tr> <tr> <td>天見小 127.50%</td><td></td></tr> <tr> <td>楠小 100.50%</td><td></td></tr> <tr> <td>石仏小 109.40%</td><td></td></tr> <tr> <td>川上小 111.00%</td><td></td></tr> <tr> <td>美加の台小 105.40%</td><td></td></tr> <tr> <td>南花台小 121.10%</td><td></td></tr> </table> ② 学校図書館蔵書管理システム 全市立小中学校において、学校図書蔵書管理システムの運用により、児童生徒の読書に対する意欲を活性化させ、自主的な読書活動の推進に取り組んでいる また、システム導入により、次のような効果の促進向上が図られている。			項 目	小学校	中学校	平成 28 年度整備冊数	3,353 冊	4,467 冊	平成 28 年度整備額	4,498,988 円	6,307,589 円	平成 28 年度市立小中学校蔵書数	129,312 冊	81,838 冊	学校図書館図書標準達成率	110.18% (基準冊数 117,360 冊)	103.44% (基準冊数 79,120 冊)	千代田小 111.60%	長野中 97.50%	長野小 105.80%	東中 94.80%	小山田小 109.70%	千代田中 100.60%	天野小 114.80%	西中 81.30%	高向小 131.10%	加賀田中 96.80%	三日市小 99.40%	南花台中 131.50%	加賀田小 106.10%	美加の台中 138.30%	天見小 127.50%		楠小 100.50%		石仏小 109.40%		川上小 111.00%		美加の台小 105.40%		南花台小 121.10%	
項 目	小学校	中学校																																									
平成 28 年度整備冊数	3,353 冊	4,467 冊																																									
平成 28 年度整備額	4,498,988 円	6,307,589 円																																									
平成 28 年度市立小中学校蔵書数	129,312 冊	81,838 冊																																									
学校図書館図書標準達成率	110.18% (基準冊数 117,360 冊)	103.44% (基準冊数 79,120 冊)																																									
	千代田小 111.60%	長野中 97.50%																																									
	長野小 105.80%	東中 94.80%																																									
	小山田小 109.70%	千代田中 100.60%																																									
	天野小 114.80%	西中 81.30%																																									
	高向小 131.10%	加賀田中 96.80%																																									
	三日市小 99.40%	南花台中 131.50%																																									
	加賀田小 106.10%	美加の台中 138.30%																																									
	天見小 127.50%																																										
	楠小 100.50%																																										
	石仏小 109.40%																																										
	川上小 111.00%																																										
	美加の台小 105.40%																																										
	南花台小 121.10%																																										

- (i) 容易な「本の検索」により、児童生徒の読書活動や調べ学習の支援への貢献。
- (ii) 本のバーコードと図書利用カードのバーコードのシステムへの読み込みにより、貸出・返却作業時間の短縮による効率化。
- (iii) システムの貸出・返却履歴データから児童生徒の興味のある情報を把握し、今後の蔵書選択収集時への有効活用等。

蔵書管理システム賃借料（平成 28 年 5 月末までの賃貸借）

小学校 13 校分 203,910 円

中学校 7 校分 153,540 円

賃貸借終了後は、経費削減のため平成 29 年度の更新を目途に、同機器を継続利用した。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- 各学校図書館がより充実するよう、引き続き蔵書管理システムにより適正な蔵書管理を行うとともに、「学校図書館図書標準」を目標に図書を整備し、児童、生徒の読書環境の充実を図る。
また蔵書管理システムの更新を実施し、新たな機器での継続的な活用を進める。
- 次年度においても、引き続き教育情報ネットワークの安定的な運用を行うとともに、平成 21 年度に導入した ICT 機器の更新計画（3 ヶ年：平成 28 年度～平成 30 年度）を引き続き実施する。
また、各学校において、多岐にわたるグループウェアの機能を十分に活用できるよう、教育委員会や子ども教育支援センターからの情報発信等を進める。

重点目標 22 文化活動の活性化

担当：文化・スポーツ振興課

市民団体等との連携により、文化事業や文化活動の普及に取り組んでいるが、参加者や年齢層が固定化している傾向が見られる。今後は、より広範な市民が自主的に参加、企画するとともに、「河内長野市第2期文化振興計画」に基づきより多くの市民が文化・芸術活動に接する機会を拡大することによって、心豊かな暮らしづくりに寄与する必要がある。

そのため、小中学校などの教育機関や、河内長野市文化連盟等の各種団体との連携により、市民の自主的な芸術文化活動の発展や地域文化の振興を目指すとともに、小中学生をはじめ、市民だれもが質の高い文化・芸術活動に触れる機会を提供する。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 古典に関する普及啓発事業の充実

郷土を愛する心を醸成し、人や地域とのつながりや絆を強めるため、古典講座や文楽公演を開催し、市民が古典に触れる機会を創出する。

【事業名：文化振興事業】

2. 河内長野市文化祭の展開

市民の日頃の文化活動の発表の場として市民文化祭を開催し、文化活動の振興を図る。

【事業名：文化振興事業】

3. 指定管理者制度による文化振興事業の推進

文化会館の効率的・効果的な管理運営をめざして、指定管理者制度による運営を行う。

また、指定管理者による文化振興事業として、オペラやミュージカル等の舞台芸術事業を開催するとともに、かわちながの世界民族音楽祭などの市民参画型事業を開催する。

【事業名：文化会館管理運営事業】

4. アウトリーチ事業の拡充

小中学校などにアーティストを派遣するアウトリーチ事業を実施し、文化活動に関する学習機会の充実を図る。

また、病院や福祉関係機関等へのアウトリーチ事業も展開する。

【事業名：文化振興事業】

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度の取組み及び成果					
☐ 古典の日普及啓発事業「古典の継承～文化に触れる、心をつなぐ～」講演会を実施し、435 名の参加者を得た。また、古典芸能鑑賞会「文楽」公演を開催し、818 名の入場者を得た。					
☐ 第 62 回河内長野市文化祭を、市立文化会館等において、10 月 27 日～11 月 7 日の間にて実施し、9,451 名の来場者があった。					
また、河内長野市文化連盟による「夏休み子ども体験教室」等の開催について事業支援を行っ					

た。

- ラブリーホール・オリジナル・ミュージカルや河内長野マイタウンオペラ、市民との協働で「かわちながの世界民族音楽祭」等、各種の主催・共催公演を実施した。

また、施設管理については、適切な管理と保全に努め、快適な設備環境の整備に努めた。

- アーティストを派遣するアウトリーチ事業について、教育分野として、小・中学校8校で河内長野市文化連盟の協力も得て実施するとともに、特別養護老人ホーム等10施設においても実施した。

さらに学校外での取り組みとして、大阪芸術大学との連携による「奥河内エデュケーションプログラム」を実施した。

各事業の実績等

1. 文化振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

各種の文化芸術振興事業を通じて、市民が豊かな文化芸術的環境に身を置き、優れた文化活動に触れることによって、心豊かな市民生活に寄与するために実施する。

(2) 平成28年度の実績

① 文化祭事業（事業運営を河内長野市文化連盟に委託）

市民が日頃行っている芸術・芸能・文化活動の成果を一般に公開し、市民文化の創造と振興を図った。

会 期 平成28年10月27日（木）～平成28年11月7日（月）

会 場 市立文化会館、市立市民交流センター他 入場者 9,451人

内 容 ・美術展など20部門で実施

・体験教室の実施（フラワーデザイン手作りコーナーなど4教室）

・古典の日普及啓発事業「古典の継承～文化に触れる、心をつなぐ～」と題し、講演会を実施。

（1部 和太鼓、生活の中から生まれた魂の響き 2部 合唱、合唱のルーツを語る）

② 芸術振興事業（事業を河内長野市文化連盟に委託）

優れた伝統文化に触れ、日本の伝統芸能への認識を高め次代に継承していくことを目的として開催した。

日 時 平成28年10月1日（土） 昼夜2公演

会 場 市立文化会館 大ホール、

入場者 818人（昼572人 夜246人）

内 容 「文楽公演」昼公演・妹背山婦女庭訓、夜公演・近頃河原の達引

③ 奥河内アートエデュケーションプログラム事業

奥河内という豊かな自然と芸術・美術の持つ力をコラボレーションさせ、「奥河内」や「教育立市のまち河内長野」の魅力を発信した。

内 容		開催日	会場	参加者数
茅葺きアートコンサート		6 月 19 日（日）	滝畑ふるさと文化財の森センター	68 人
創作ひろば アートの森	春開催	5 月 28 日（土）・29 日（日） 6 月 4 日（土）・5 日（日）	滝畑コミュニティ センターほか	44 人
	夏開催	8 月 18 日（木）～21 日（日）		47 人
	秋開催	10 月 22 日（土）・23 日（日） 29 日（土）・30 日（日）		44 人
奥河内子ども写生大会		7 月 23 日（土）・24 日（日）	観心寺	107 人
合 計				310 人

2. 文化会館管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

本市文化活動の拠点である文化会館をその目的に合った効率的・効果的な維持管理・運営を行うことにより、市民の文化芸術活動を推進する。また、文化施設の設備を良好な状態に保ち、施設利用者の快適な環境を維持する。

(2) 平成 28 年度の実績

① 文化振興事業

文化・芸術の香り高いまちづくりを総合的に推進し、市民の豊かな心と個性ある文化活動を育むことを目的として、市立文化会館の指定管理委託に文化振興事業を含めて委託した。

事業数 116、公演数 515、入場者数 55,270 名

主な事業内容は以下のとおり。

- ・地域の芸術文化の振興を図る事業（公益目的事業）
- ・河内長野発の優れた舞台芸術作品を創造し発信する事業（創造発信型事業）
河内長野マイタウンオペラ（7/16, 7/17）、ラブラリーホール・ミュージカル（8/5～7）等
- ・市民との協働により芸術文化を創造する事業（市民参画型事業）
かわちながの世界民族音楽祭（9/11）、ラブラリーハロウィーン in かわちながの（10/10）等
- ・年間を通じて行う長期ワークショップ型事業（教室運営型事業）
（H28 年度末生徒数）ミュージカルスクール（81 名）、ゴスペル教室 Make U s One（36 名）等
- ・地域の芸術家を発掘し育成する事業（芸術家育成型事業）
ロビーコンサート（4 公演）、ラブラリーホール新人演奏会（6/10）
- ・多種多様な芸術文化に会う機会を提供する事業（芸術文化普及型事業）
シネマ de ラブラリー（毎月 1 映画、各 3 回上映）、カフェ・コンチェルト（4 公演）等
- ・アーティストの派遣を通じて芸術文化に触れる機会を創出する事業（アウトリーチ事業）
小学校 5 校（7 公演）、中学校 3 校（3 公演）、福祉施設 10 施設（10 公演）への派遣

- ・地域の芸術文化活動を多様な角度から支援する事業（芸術文化活動活性化支援事業）
河内長野市文化祭（10/27～11/7）、ラブリーホール市民芸術文化活動助成事業等

② 文化会館管理運営業務

文化をキーワードとする市民の参加、交流、創造活動の拠点として、また文化情報の発信基地として、フレキシブルで効果的な管理・運営をめざし、公益財団法人河内長野市文化振興財団を指定管理者として、管理運営を実施した。

- ・施設の利用許可等に関する業務
- ・施設及び付属設備、その他器具、備品等の維持管理に関する業務等

③ 文化施設維持保全事業

市立文化会館煙突断熱材に含まれるアスベストの有無とその量を調べるため、調査を行った。

工期 平成 29 年 2 月 28 日（火）～平成 29 年 3 月 31 日（金） 金額 216,000 円

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 古典普及啓発事業として講座等を開催し、引き続き古典の魅力の普及啓発に努める。
- ☐ 社会環境の変化により生涯学習の必要性が高まっており、より一層市民に広く受け入れられるよう、河内長野市文化連盟をはじめとした各種団体との連携を図りながら事業内容を充実し、裾野を拡大するよう、積極的に推進する。
- ☐ 市民に対して、質の高い文化・芸術にふれる機会を提供することにより、日々の生活を心豊かにし、市民による自主的な文化・芸術の発展を促すことで、地域文化の振興を図る。
- ☐ アウトリーチ事業の内容の充実を図り、多くの市民が芸術や文化にふれる機会を創出するとともに、教育機関や福祉関係施設との連携を強化し、引き続き事業の推進を図る。

重点目標 23 市民のニーズに応じた学びの機会・場の提供と市民の学習活動支援体制の充実

担当：文化・スポーツ振興

「河内長野市第2次生涯学習推進計画（くろまる生涯学習プラン）」に基づき、河内長野市民大学「くろまる塾」を生涯学習推進の中心として、学びの場や質の充実に取り組んでいる。今後とも、生涯にわたる学びの成果を社会や地域に活かしていくため、学習機会の充実や支援体制の整備が求められている。また同時にファシリテーター(※)能力等を備えた人材の育成や公益市民活動団体・地域活動団体等の既存活動団体との調整・協働による地域力の向上が課題である。

そのため、生涯学習を個人の生きがいや自己実現だけではなく、社会や地域に還元できるよう、まちづくりや行政、団体等との協働を担う人材の育成や支援体制の充実に取り組む。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 河内長野市民大学「くろまる塾」を中心とした生涯学習の推進

市民大学「くろまる塾」を中心に生涯学習の推進に努め、市民が学びを通じて地域社会へ貢献し、まちづくりへ参画する生涯学習社会の実現を目指し、様々な講座等を実施する。

あわせて、生涯学習の推進を図るファシリテーター(※)的な役割を担う人材の育成にも取り組む。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

2. 市民の自主的な学びの場や機会の充実

市民一人ひとりが、自らの意思に基づく学びの場を得られるよう、それぞれのニーズに応じた学びの提供に努めるとともに、学習機会の充実のためのサポートを実施する。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

3. 生涯学習情報の発信強化

学びやんネットや市ホームページなどを通じて、広く生涯学習情報の発信を図り、市民一人ひとりが希望する生涯学習情報を得ることのできる環境を整える。

【事業名：生涯学習情報提供事業】

4. 生涯学習相談体制の整備

市民交流センター指定管理者が運営するくろまる塾事務局と市とが協力し、生涯学習に関する相談窓口としての機能充実を図る。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

5. 多様な活動の場の確保

ボランティアや地域支援活動など、市民が様々な分野にわたって多様な活動を展開できるよう、河内長野市立市民公益活動支援センター「るーぷらざ」等と連携し、活動の場の確保に努める。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

6. 指定管理者制度による生涯学習事業の推進

市民交流センターの効率的・効果的な管理運営をめざして、指定管理者制度による運営を行う。

今後5年間の指定管理者は、過去2年間に引き続き、公益財団法人河内長野市文化振興財団を選定したことから、文化会館との両施設を一括管理運営することによる相乗効果を発揮するとともに、

文化振興事業で培った能力・人的ネットワークを生かし、生涯学習事業を推進する。

【事業名：市民交流センター管理運営事業】

※ ファシリテーター：会議やミーティングなど複数の人が集う場において、議事進行を務め、中立な立場を守り、参加者の心の動きや状況を見ながら、プログラムを進行していく人。また、段取り・進行・プログラムをかんがみながら、問題の解決や合意の形成に導く役割をする人。

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	B	有効性	A
「くろまる塾」での学びの成果を地域での実践につなげていくために、検討の余地があるため事業評価の効率性を B 評価とした。今後、地域での課題や問題とくろまる塾学生とのマッチングを促す仕組みづくりを検討するとともに、市民交流センターの効率的効果的な維持・管理運営を行い、利用者が快適に館を利用できるようサービス充実に引き続き務める。					
平成 28 年度の取り組み及び成果					
□ 河内長野市民大学「くろまる塾」において年間 345 事業 345 講座におよぶ、多種多様なくろまる塾認定講座を実施し、累計受講者数 11,845 名の参加を得た。 □ 大阪千代田短期大学、大阪大谷大学、高野山大学、大阪府立大学、桃山学院大学と連携して講座を開催し、市民に対し、様々な学習の提供を行った。 □ 学びやんネットにてインターネットにおける学習情報を提供し、869 件（平成 28 年度末時点）の登録情報を発信した。					
各事業の実績等					
1. 市民交流センター管理運営事業【継続事業】 (1) 事業の目的 館の施設維持管理・改善を図り、様々な学習ニーズに応えることができ、利用しやすい施設づくりに努める。館の設備を良好な環境に保ち、館利用者等の快適な環境を維持する。 (2) 平成 28 年度の実績 ① 市民交流センターの管理運営 生涯学習の拠点として、また図書館や国際交流・男女共同参画・青少年・勤労市民福祉などの多機能複合施設として、常に良好な状態で機能し利用できるよう指定管理者を通じ維持管理を実施し、多くの市民の利用を得た。 ② 河内長野市民大学「くろまる塾」の充実 指定管理者にてくろまる塾事務局機能の一部を担い、市とともに継続した講座の実施とさらなる充実を目指し、地域学講座（ボランティアの楽しみ方）、大学連携講座（福祉、子育て、健康、法律、文学、医療、人文学）、医療連携講座など多彩な学習機会の提供に努めた。					

・利用状況

ア. くろまる塾生数 1,502 名（平成 28 年度末）

イ. 全認定講座数 345 事業 345 講座

くろまる塾本部企画講座 49 事業 49 講座、その他の認定講座 296 事業 296 講座

ウ. 累計受講者数 11,845 名

エ. 学位取得者数 累計 76 名

くろまる塾市民博士（600 単位到達者） 33 名（うち本年度到達者 9 名）

くろまる塾市民修士（400 単位到達者） 11 名（うち本年度到達者 3 名）

くろまる塾市民学士（200 単位到達者） 32 名（うち本年度到達者 4 名）

・運営状況

ア. くろまる塾本部企画講座

A. 大学連携講座

大阪千代田短期大学編：全 6 回、大阪大谷大学編：全 4 回、高野山大学編：全 4 回

大阪府立大学編 前期：全 4 回 後期：全 5 回

桃山学院大学編 前期：全 4 回 後期：全 4 回

B. 教養講座

芸術編：全 2 回、文化編：全 3 回、天文学編：全 4 回、数学編：全 2 回

C. その他講座

地域学講座編：全 2 回

医療連携講座 大阪南医療センター編：全 3 回

学位授与式・特別講演会 前期：「山を鳴らす～僕なら奥河内をこう面白くします～」

後期：「経営学の観点から見た河内長野市行政運営について」

イ. 認定講座

市主催の防災まちづくり講座や市民公益活動支援センター（るーぷらざ）が実施するボランティア活動体験プログラム、また市内の NPO 法人が主催している講座等。

2. 生涯学習情支援事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 生涯学習を始める（深める）ためのきっかけづくり。
- ② 学習の成果を社会に活かすためのきっかけづくり。
- ③ 生涯学習に対する正しい理解の普及。

(2) 平成 28 年度の実績

① 刊行物等による生涯学習情報の提供

生涯学習を始めるためのきっかけづくり、学習の成果を社会に活かすための機会の提供、また生涯学習に対する正しい考え方の普及のため、市民に生涯学習情報の情報提供を幅広く行った。

(i) 河内長野市生涯学習情報提供システム「学びやんネット」

登録情報内訳（H28 年度末）

イベント・相談・募集情報 126 件

施設情報	154 件
団体・グループ情報	444 件
講師・ボランティア情報	62 件
刊行物・冊子・ビデオ情報	83 件

(ii) 「河内長野市まちづくり出前講座」の実施

市政への理解を深めるとともに、学習機会の充実及び意識啓発を図り、もって生涯学習によるまちづくりの推進に寄与するため、メニューに基づき河内長野市民の求めに応じて市職員を派遣し、情報提供・事業・施策・制度などを説明する「河内長野市まちづくり出前講座」を実施した。

メニュー数 29 部署 57 メニュー

申込件数 75 件

実施会場 地域の自治会館、公民館、コミュニティセンターなど

受講者 延べ 5,020 人

(iii) 「みんなのクラブ活動」誌の発刊

団体・サークル情報をさらに効果的に発信するため、市内で活動をしている団体の活動内容や連絡先などを記載した、平成 28 年度版「みんなのクラブ活動」誌を閲覧用冊子及びダイジェスト版パンフレットにして発刊した。

印刷枚数 970 部（市内の公共施設に配布）

掲載団体数 268 団体

(iv) 「くろまる塾認定講座一覧表」の送付

くろまる塾認定講座情報の周知のために、2 ヶ月に一度 1,200 部配布し、情報提供に努めた。

(v) 市民交流センターにおける情報提供

市民交流センター内の情報プラザにおいて、ポスター、チラシ、パンフレット、啓発冊子などの掲示・配架・配布による情報提供を行った。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 生涯学習社会の推進に向けて、生涯学習推進計画に基づき、今後とも市民に対し生涯学習情報を発信し、学びの機会を提供するとともに、市民が学びの成果を活かしていくことができるような仕組みづくりに継続して取り組んでいく。
- ☐ 学びが地域でのまちづくりに繋がるよう地域や NPO などの各種団体、学校と連携を深め、地域での市民の公益活動・社会活動・福祉活動・ボランティアなどの様々な活動への参加を促すよう努める。
- ☐ 学びやんネットによる生涯学習情報の充実、講座企画の見直しによる人的交流機会の創設や、市民公益活動支援センター「るーぷらざ」等との連携により、各学習グループや人と人との繋がりの支援に努める。
- ☐ 市内における様々な知識・技能を有する人材を発掘し活用するため、学びやんネットの充実や庁内での情報共有、「るーぷらざ」等との連携強化に取り組む。

重点目標 24 スポーツ施設の充実と生涯スポーツ活動の推進 担当：文化・スポーツ振興課

スポーツは体力を向上させるだけではなく、他者への尊重や協調性、実践的な思考力や判断力等といった、各種の学習活動面のほか、人や地域の交流など様々な効果が期待できることから、生涯スポーツの振興に努めている。しかし、スポーツ施設の利用者総数は、少子高齢化などの影響により、減少傾向にあることから、その増加対策が求められている。

一方、施設面においては、「河内長野市スポーツ施設整備計画」に基づき機能回復を目的とした整備に取り組んでいるが、老朽化への対応が課題となっている。

そのため、市民だれもが身近な場所で、スポーツを通じた体力向上と健康維持、人々の交流ができる環境づくりに取り組むとともに、手軽に行える体験事業などを通じた普及活動を実施し、機会の提供に取り組む。

また、指定管理者との連携により、施設の効率的な運営と計画的な施設整備を進め、安全に利用しやすい施設運営を行う。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. スポーツ普及啓発事業の実施とスポーツ活動の普及・振興

- ① スポーツ活動や体力づくりに取り組むきっかけとなるよう、ニュースポーツ(※)体験会の実施など、市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会を提供し、スポーツの普及と振興を図る。

【事業名：スポーツ普及啓発事業】

- ② 体力の低下が課題とされる小学生を対象に、関係団体が連携・協力して実施する、小学生駅伝大会やロープジャンプ大会、ドッジボール大会等の事業を全面的に支援する。

【事業名：スポーツ振興事業】

- ③ 広く市民が自主的に参加できるよう、河内長野シティマラソン大会や南大阪駅伝競走大会等のスポーツ行事を実施し、スポーツの普及啓発と競技水準の向上を図る。

また、地域住民が自主的にスポーツ活動を展開できる場として、学校体育施設の開放を実施する。

さらに、今年度は、課業中の学校体育館の使用について、モデル事業の実施を検討する。

【事業名：河内長野シティマラソン事業、南河内スポーツ振興事業、学校体育施設開放事業】

2. 下里運動公園の整備と利用促進

サッカー等のための球技施設として、下里運動公園の整備を進め、平成 28 年 6 月のオープンをめざす。また、オープン後は、施設利用の促進、特に平日の利用促進を図るため、市内・市外の関係団体と連携協力した取組みを実施するとともに、そのPRなど情報発信を実施する。

【事業名：スポーツ施設整備事業】

3. 既存スポーツ施設の計画的な整備

市民がスポーツ施設を安全に使用できる環境を整備するため、市内スポーツ施設に計画的な改修工事や修繕などを実施し、各施設の機能を回復するとともに、機能の充実を図る。

【事業名：スポーツ施設整備事業、スポーツ施設管理運営事業】

4. 次期生涯スポーツ振興プランの策定

「いつでも だれでも どこでも スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現」等をめざし、平成 13 年度に策定した河内長野市生涯スポーツ振興プランの目標年次が平成 27 年度（2015 年度）で終了したため、次期プラン計画を平成 28 年度に策定する。

【事業名：スポーツ振興事業】

5. スポーツ・ボランティア制度の構築と運営

スポーツ技術の指導やスポーツ事業の広報活動、スポーツ施設の維持管理など、スポーツに関して協力していただける市民をスポーツ・ボランティアとして登録の上、活動していただく制度を構築し、市と協働でスポーツ活動を側面支援する。

6. スポーツ施設の指定管理者の更新

平成 29 年 4 月からの次期スポーツ施設の指定管理者を今年度に公募の上選定する。

また、スポーツ振興事業は、引き続き、河内長野市総合スポーツ振興会に委託する。

そこで、指定管理者の更新については、当該振興会と綿密に協議・調整の上、円滑に移行させるとともに、市・振興会・選定業者の 3 者が連携・協力し、それぞれの役割を明確にし、スポーツ振興を進める体制を構築する。

※ ニュースポーツ：勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼とした身体運動。

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	B	有効性	B
総合型地域スポーツクラブの設立支援において、東中学校区総合スポーツクラブが解散し、本市の総合型地域スポーツクラブは、長野総合スポーツクラブの 1 箇所のみとなったため、事業評価の有効性を B 評価とした。 市内で唯一の総合型地域スポーツクラブである長野総合スポーツクラブの活動範囲を市内全域に認めてその活動をより発展させていく等、生涯スポーツ社会を地域密着型で実現させるため、総合型地域スポーツクラブの今後の在り方を検討する。					
平成 28 年度取り組み及び成果					
☐ スポーツ普及啓発事業の実施とスポーツ活動の普及・振興 ・市民が身近なところでスポーツ活動に取り組めるよう、以下の事業を実施した。 ・スポーツを通じての体力づくりやスポーツへの参加機会を提供するため、スポーツ普及啓発事業として、体力測定会や小学生駅伝大会を開催した。 ・南河内地区のスポーツ振興に努めるとともに、スポーツ精神の高揚を図るため、地区 6 市 2 町 1 村共催により、南大阪駅伝競走大会を開催した。					

- ・市民総合体育館トレーニング室を安全かつ効果的に利用してもらうため、トレーニング講習会や相談を実施した。
- ・市民のスポーツへの参加機会の提供及びスポーツ精神の高揚を図るため、バドミントンなど 24 種目の市民スポーツ大会を開催した。
- ・スポーツに親しめる環境づくりのため、学校体育施設の開放事業を行った。
- ・スポーツ精神の高揚を図るため、大阪府総合体育大会（9 種目）に選手を派遣した。また、市民のスポーツへの参加機会の提供のため、河内長野シティマラソン大会を開催した。
- ・市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりのため、総合型地域スポーツクラブの活動支援を行った。

□ 下里人工芝球技場の整備

- ・下里町公共用地において、(仮称) 人工芝球技場整備工事及び管理棟建築工事を完了し、平成 28 年 6 月 1 日に下里運動公園をオープンした。

□ 既存スポーツ施設の計画的な整備

- ・市民サービスの向上のため、スポーツ施設の管理運営業務を指定管理者である総合スポーツ振興会と連携を図りながら実施するとともに、効率的な運営を継続するために「オーパス・スポーツ施設情報システム」の運用を行った。
- ・市民が手軽に身近でスポーツに親しむことができるよう、平成 26 年度より取り組んでいる新たなニーズへの対応としてのスポーツ施設の整備を進めた。

各事業の実績等

1. スポーツ普及啓発事業【継続事業】

(1) 事業の目的

スポーツ推進体制の整備を図るため、スポーツ推進委員を委嘱し、スポーツ推進事業の連絡調整や実技指導等を行うことでスポーツの普及啓発を図る。

(2) 平成 28 年度の実績

① 体育の日事業

体育の日の行事として、体力測定会を実施した。

実施日 平成 28 年 10 月 10 日（祝）

場 所 市民総合体育館

参加者 38 人

② 第 4 回小学生駅伝大会

駅伝という競技を開催することにより、小学生の体力向上や青少年の健全な育成に努めた。

実施日 平成 28 年 12 月 4 日（日）

場 所 関西サイクルスポーツセンター（サイクリングコース）

参加者 224 人（56 チーム）

※ 低学年の部 14 チーム・高学年の部 21 チーム、学校区対抗の部 12 チーム・

ファミリーの部 9 チーム

2. スポーツ振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

広く市民が自主的に参加できるようなスポーツ行事を実施し、市域または地域におけるスポーツの機会を確保することにより、スポーツの普及と競技水準の向上を図る。

(2) 平成 28 年度の実績

東中学校区総合スポーツクラブの教室などの活動に対して支援した。

【教室】

○ヨガ	36 回	○インディアカ	32 回	
○太極拳	33 回	○居合道（体験）	35 回	計 136 回

3. 河内長野シティマラソン事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市民スポーツの普及・振興に努めるとともに、参加者の健康体力の増進と親睦を図るため第 62 回河内長野シティマラソン大会を開催した。

(2) 平成 28 年度の実績

市民スポーツの普及・振興に努めるとともに、参加者の健康体力の増進と親睦を図るため、第 62 回河内長野シティマラソン大会を開催した。

実施日 平成 29 年 2 月 19 日（日）

会 場 長野小学校ほか

コース [ハーフ] 中村池公園～滝畑折返～長野小学校

[10km] 中村池公園～日野折返～長野小学校

[5 km] 中村池公園～高向折返～長野小学校

[ジョギング] 中村池公園～錦 町～長野小学校

＜第 62 回マラソン大会参加者数＞

単位：人

部 門	申 込 者	出 場 者	部 門	申 込 者	出 場 者
ハ ー フ 男 子	1,027	877	5 km 男 子	157	140
ハ ー フ 女 子	200	165	5 km 女 子	101	90
1 0 km 男 子	402	334	ジ ョ ギ ン グ	352	293
1 0 km 女 子	157	128			
			合 計	2,396	2,027

4. 南河内スポーツ振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

南河内地区各市町村と連携を図るとともに、広く自主的に参加できるような行事を実施し、広域的なスポーツの振興を推進する。

(2) 平成 28 年度の実績

南河内地区のスポーツ振興に努めるとともに、スポーツ精神の高揚を図るため、南河内地区 6 市 2 町 1 村共催により、第 60 回南大阪駅伝競走大会を開催した。

実施日 平成 29 年 2 月 5 日（日）

場 所 PL 本庁内コース（富田林市）

参加者 152 チーム

5. 学校体育施設開放事業【継続事業】

(1) 事業の目的

校区住民の自発的、自主的なスポーツの場を提供し、市民スポーツの振興を図るとともに地域の身近なコミュニケーションづくりに寄与する。

(2) 平成 28 年度の実績

地域住民が自主的にスポーツができる場を提供し、地域スポーツの振興を図るとともに、地域のコミュニケーションづくりのため、学校体育施設（市立小・中学校の運動場及び小学校の体育館）の開放を実施した。

〔運動場〕

開放実施校 17 校（実績）

開放実施回数 2,741 回（1 回あたり概ね 3 時間）

利用者数 180,802 人

〔体育館〕

開放実施校 13 校

開放実施回数 3,301 回（1 回あたり概ね 3 時間）

利用者数 80,683 人

【開放校と開放種目】

種目 学校名	体育館					運動場					
	バドミントン	バレーボール	ミニバスケットボール	武道柔道を除く バントワシ等	健康体操、ヨガ	サッカー	ソフトボール			キックベースボール	軽スポーツ等 運動会
							高校生以上男性	高校生以上女性	中学生以下		
長野小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小山田小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
三田市小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川上小学校	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
天見小学校	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○
千代田小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
楠小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
天野小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高向小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
加賀田小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石仏小学校	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
南花台小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
美加の台小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長野中学校						○	○	○	○	○	○

東中学校	×	○	○	○	○	○
千代田中学校	○	×	×	○	○	○
西中学校	○	○	○	○	○	○
加賀田中学校	○	○	○	○	○	○
南花台中学校	○	○	○	○	○	○
美加の台中学校	○	○	○	○	○	○

6. スポーツ施設整備事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市民が手軽に身近でスポーツに親しむことができるよう、平成 26 年度より取り組んでいる新たなニーズへの対応としてのスポーツ施設を整備するための整備工事を進めた。

(2) 平成 28 年度の実績

前年に引き続き、新たなニーズへの対応として、下里町公共用地において、人工芝球技場整備工事及び管理棟建築工事を完了し、平成 28 年 6 月 1 日に下里運動公園をオープンした。

※ 管理棟（コミュニティルーム等）は平成 28 年 7 月 1 日にオープン

① 人工芝球技場（夜間照明設備あり）

大人用サッカーコート（公式試合サイズ：105m×68m）1 面を整備した。
（内に、子供用サッカーコート（68m×50m）2 面、ラグビーコートを含む）

② 管理棟

大会の休憩室や集会等、多目的に利用できるコミュニティルーム（2 階 2 室）、授乳室等を備えた更衣室（2 室※シャワー 4 基設置）及び大会役員室や救護室として利用できる管理室・放送室を整備した。

③ その他

約 280 人を収容可能な観覧席、駐車場（乗用車：最大 175 台）及び駐輪場（約 50 台）を整備した。

<利用料金>

料 金	人工芝球技場（平日）	2 時間全面	5,000 円	2 時間 1/2 面	2,500 円
	人工芝球技場（土日祝日）	2 時間全面	6,000 円	2 時間 1/2 面	3,000 円
	※ナイター（17：00～21：00）				
	平 日	1 時間全面	2,500 円	1 時間 1/2 面	1,250 円
	土 日 祝 日	1 時間全面	3,000 円	1 時間 1/2 面	1,500 円
	コ ミ ュ ニ テ ィ ル ル ーム	2 時間全面	800 円	2 時間 1/2 面	400 円
	照 明	1 時間全面	1,000 円 （6 分間：100 円）	1 時間 1/2 面	500 円 （6 分間：50 円）
	シ ャ ワ ー 設 備		5 分間	100 円	

平成 28 年 6 月にオープンし、平成 29 年 3 月末までの目標利用者数を達成した。

今後、利用が少ない平日の昼間について、効果的な活用方法を検討し、更なる利用者の増加を図る。

7. スポーツ施設管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市民が身近にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の運営管理に指定管理者制度を導入し、施設利用者の利便性の向上を行った。

(2) 平成 28 年度の実績

① 施設利用状況

スポーツ施設を安全に使用できるよう施設の維持管理を行い、スポーツ環境の整備に努めた。

単位：人

施 設		利用人数	施 設		利用人数
市民総合体育館 (競技場・第2競技場・会議室・卓球場・トレーニング室)		132,254	寺ヶ池公園野球場		17,632
			天野少年球技場		13,129
			武道館		25,452
運動場	大師総合運動場	70,528	庭球場	寺ヶ池公園庭球場	31,653
	下里総合運動場	42,078		大師庭球場	12,921
	下里人工芝球技場	74,620		荘園庭球場	12,655
	赤峰市民広場 (野外ステージ・控室・会議室・研修室)	155,845	プール	寺ヶ池公園プール	14,368
キャンプ場	赤峰市民広場	887	合 計		604,837
	岩湧野外活動広場	815			

② オーパス・スポーツ施設情報システム利用状況（メディア別）

オーパス・スポーツ施設情報システムを引き続き運用し、スポーツ施設の運営を円滑にするとともに、利用手続きの簡素化・迅速化により、サービスの向上を図った。

メディア別	音 声	街頭端末	インターネット	携帯ウェブ	業務端末	合 計
利用件数	1,332	247	45,429	658	5,745	53,411
構成比(%)	2.49	0.46	85.06	1.23	10.76	100.0

③ スポーツ振興事業

(i) 市民スポーツ大会の開催（計 24 種目 参加者総数 9,313 人）

バドミントン、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、テニス、バレーボール、ゲートボール、少年軟式野球、ソフトテニス、卓球、軟式野球、剣道、少林寺拳法、居合道、陸上競技、水泳、柔道、ペタンク、グラウンドゴルフ、インディアカ、体操フェスティバル、軽スポーツ、スポンジテニス、バトントワーリング

(ii) 大阪府総合体育大会派遣事業（総出場者数 276 人）

参加種目 サッカー、ソフトテニス、ソフトボール、卓球、テニス、軟式野球、バスケットボール、バドミントン、剣道

④ 市民スポーツ教室開催事業

(i) トレーニング講習会（実施回数 16 回、受講者数 316 人）

市民総合体育館トレーニング室の安全かつ効果的な利用を図るため、講習会を開催した。

(ii) トレーニング相談（実施回数 12 回、相談者数 45 人）

市民総合体育館トレーニング室利用者に対し、トレーニング方法などについて、専門トレーナーが指導・相談を行った。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 総合型地域スポーツクラブと連携しクラブの活動の充実を行うとともに、学校体育施設開放事業の整備を促進するなど、市民が気軽にスポーツを行う場の環境づくりを進め、地域スポーツの振興を図ることが引き続き今後の課題である。
- ☐ 市民の競技スポーツ志向の低下に伴うスポーツ人口の減少が見られるため、「競う」意識の高揚が課題である。市総合スポーツ振興会と協議や連携を行い、引き続きスポーツ事業を開催し、小学生駅伝大会やシティマラソン大会の事業の充実を図る。
- ☐ 「オーパス・スポーツ施設情報システム」を引き続き運営し、市民がいつでもどこからでもスポーツ施設の利用手続きを行うことができる効率的な環境を継続する。
- ☐ 市内各スポーツ施設の老朽化が進行している中、計画に基づき順次整備を進める必要が生じているものの、実施には多額の予算が伴い、当初の計画通りの補修や整備が困難な状況であるため、今後、整備計画の見直しを図る必要がある。平成 28 年 6 月にオープンした下里運動公園については、円滑な管理運営などの環境整備に取り組む。
また、指定管理者職員の研修などの実施により、来場者受付などの施設管理面における市民サービスの更なる充実を図る。あわせて、担当職員においても研修などの参加により、施設管理運営知識・技術の向上を図る。

重点目標 2 5 社会教育の推進

担当：文化・スポーツ振興課

人口減少、核家族化などによる地域活動の担い手の減少や地域のつながりが希薄化するなど、今日、個人や地域が抱える課題が多様化・複雑化している。このことから地域の様々な課題解決に向けて、一人ひとりが能動的に行動し協働による地域づくりが可能となる学習が求められてきている。

そのため、特に、地域コミュニティ、安全・安心などの分野を重点課題とし、現代的課題に対応した学習機会を積極的に提供する。また、社会教育を推進する公民館は地域活動の中核施設として、地域の課題を的確に把握し、関係団体や市民と連携協力しながら、地域活動の担い手への支援及びその成果の活用を機会を継続して提供する。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 社会教育の推進

人権、地域コミュニティ、家庭教育・子育て支援、高齢者の生きがいづくり支援、安全・安心、伝統文化・郷土歴史を現代的課題の重点課題とし、市民が公民館等で学習できる機会を充実すると共に、学んだ成果を活用する場としての公民館を推進する。

また、公民館において子どもが様々な体験をできる講座や教室を開催し、子どもの体験活動を充実させる。子どもから大人までが集える地域の拠点づくりを進める。

【事業名：公民館管理運営事業】

2. 社会教育委員会及び公民館運営審議会の開催

地域住民の学習ニーズを適切に把握し、それを社会教育事業に展開していくため、また、地域住民の組織的な教育活動と実施主体との連携・協働を図るため、教育委員会の諮問に応じるなど、社会教育委員会及び公民館運営審議会を開催する。

【事業名：社会教育委員会事業】

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度の取り組み及び成果					
☐ 地域にある社会教育施設である公民館が、単独で事業を企画・実施するだけではなく、地域の諸団体や小中学校と連携し、地域課題に関する講座等を開催した。					
☐ 公民館施設の貸出により、市民によるクラブや団体の自主的学習活動の場を提供し、活動の支援を行った。					
☐ 本市における社会教育の振興方策等について、広く市民の意見を反映するため、社会教育委員会及び公民館運営審議会を開催した。					

各事業の実績等

1. 公民館主催事業【継続事業】

(1) 事業の目的

急激な社会の変化やその時々課題を、市民自らが認識をもって解決することができるよう、社会教育の視点から市民への学習及び啓発の機会を提供し、地域の教育力の向上を図るために、公民館等において主催事業の企画実施等を行なう。

(2) 平成 28 年度の実績

公民館が、地域での学習拠点となるように、統一のテーマで実施する「公民館リレー講座」や各地域の課題について考える講座等を実施した。また、地域住民を講師にむかえた講座や小学校への「出前講座」も実施した。

公民館主催事業状況

上段：講座数（単位：講座数）、下段：参加者数（単位：人）

館 名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計
①人権事業	1 47	5 209	1 15	3 438	2 94	1 221	1 32	1 45	15 1,101
②地域コミュニティ事業	13 217	9 145	4 124	4 53	4 132	5 44	6 144	17 443	62 1,302
③-1 親学習・家庭教育事業	1 15	1 43	1 25	5 510	4 212	1 10	2 26	4 234	19 1,075
③-2 子ども対象事業（通年分）	1 146	2 866	0 0	2 244	1 367	1 114	2 149	1 33	10 1,919
③-3 子ども対象事業（長期休み・休日）	3 39	5 63	2 50	3 76	2 34	4 48	3 36	3 37	25 383
④高齢者の生きがいづくり支援事業	2 99	2 45	1 16	2 242	0 0	1 18	2 24	1 28	11 472
⑤安全・安心事業	1 17	1 15	1 12	1 48	1 20	1 20	1 11	1 29	8 172
⑥伝統文化・郷土歴史事業	1 5	1 48	4 136	3 152	1 19	2 33	3 78	2 70	17 541
合計	23 585	26 1,434	14 378	23 1,763	15 878	16 508	20 500	30 919	167 6,965

2. 社会教育委員会議事業【継続事業】

(1) 事業の目的

本市の社会教育施策に関して、市民の意見等を反映するため社会教育委員会議及び公民館運営審議会を開催する。

(2) 平成 28 年度の実績

本市における社会教育の振興方策等について、広く市民の意見を反映するため、社会教育委員会及び公民館運営審議会を開催した。

＜社会教育委員会及び公民館運営審議会委員活動状況＞

活動日		議案等	備考
6 月	30 日（木）	・河内長野市第 5 次総合計画・河内長野市教育大綱・平成 28 年度河内長野市教育推進プランについて ・青少年の社会参画を推進するための教育施策について（諮問） ・公民館の取り組みについて	全体会議
8 月	25 日（木）	・青少年の社会参画を推進するための教育施策について ・公民館の取り組みについて	全体会議
9 月	9 日（金）	近畿地区社会教育研究大会（滋賀大会）	研修
11 月	1 日（火）	中河内・南河内地区社会教育委員研究協議会	研修
11 月	24 日（木）	・青少年の社会参画を推進するための教育施策について	全体会議
1 月	27 日（金）	大阪府社会教育研究会議	研修
3 月	2 日（木）	・青少年の社会参画を推進するための教育施策について	全体会議

3. 公民館施設管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

市民の生涯学習活動支援のための貸館業務及び主催事業の企画運営を行う。また、地域住民へ図書を貸し出すため、図書室の運営を行う。

(2) 平成 28 年度の実績

① 公民館利用状況（団体区分別）

館 名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計	前年度合計
公民館主催クラブ	4,842	8,158	8,591	27,395	16,460	3,175	4,573	7,378	80,572	82,923
公民館登録団体	1,910	0	0	6,028	3,023	15	816	2,981	14,773	14,968
一般団体	2,389	1,861	671	7,333	4,327	1,498	1,262	1,284	20,625	20,055
青少年団体	0	0	0	221	122	0	0	0	343	402
高齢者団体	0	0	0	0	88	5	0	0	93	87
女性団体	0	0	0	0	0	0	0	242	242	223
市関係	1,911	2,316	1,676	6,025	2,557	1,308	1,298	1,954	19,045	20,139
その他団体	0	259	241	53	6	0	0	0	559	288
個人	5,091	7,432	3,341	15,043	12,089	3,201	3,754	19,353	69,304	74,814
合 計	16,143	20,026	14,520	62,098	38,672	9,202	11,703	33,192	205,556	213,899

② 公民館男女別利用人数

館 名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計	前年度 合計
男 性	6,429	6,868	3,096	14,643	11,135	2,555	2,802	11,837	59,365	62,734
女 性	9,714	13,158	11,424	47,455	27,537	6,647	8,901	21,355	146,191	151,165
合 計	16,143	20,026	14,520	62,098	38,672	9,202	11,703	33,192	205,556	213,899

③ 公民館図書室利用状況

館 名	川上	加賀田	高向	千代田	三日市	天見	天野	南花台	合計	前年度 合計
入 室 者 数 (人)	5,091	7,210	3,341	15,043	12,089	3,187	3,744	19,353	69,058	74,253
新規登録者数 (人)	31	82	16	74	53	13	30	111	410	518
貸 出 人 数 (人)	2,788	4,450	2,383	9,824	7,409	1,538	1,380	12,969	42,741	45,211
貸 出 冊 数 (冊)	7,938	11,499	5,600	22,988	17,488	4,368	2,896	33,831	106,608	115,364
返 却 冊 数 (冊)	8,623	11,826	6,066	19,777	14,031	5,444	2,752	35,498	104,017	111,935

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

- ☐ 地域の諸団体と連携する地域課題に関する講座等の開催に関しては、課題の抽出や調整等が難しい場合があったが、今後も市民ニーズや地域のニーズを的確に把握し、地域の課題解決のための事業を積極的に実施する。
- ☐ 公民館施設をより効果的・効率的に運営するためには、事業への参加や施設の利用にあたって、今まで以上に新規の参加者等を増加させる工夫が必要である。
- ☐ 公民館の利用が活発になるよう、ホームページや公民館だよりなどをおして、公民館の利用方法や活動内容などの広報をさらに積極的に行う。

重点目標 26 子どもたちや市民の読書活動の推進

担当：図書館、教育指導課

読書は、豊かな人間性を育む上で非常に有効であり、継続的な読書活動の推進や、その楽しさを子どもたちに伝えるための持続的な取り組みが求められている。また、市民の読書活動を推進する上で不可欠な市民ボランティアが高齢化し、減少傾向にあることから、後継者の養成が課題となっている。

そのため、図書館では「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちをとりまく関係機関や地域との連携を図りながら、読書環境の醸成などに取り組む。また、市民ぐるみの読書活動を推進するため、ボランティアの養成を図るほか、地域の人材を活用した講座の開催や読書機会の拡大を進める。

また、学校教育においては、昨今、様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の少なさなどによる、子どもの読書離れ、活字離れが問題となっている。しかし、読書体験は、子どもの言葉や感性を育み、表現力や想像力を豊かにし、人間関係を築いていく上で大切なコミュニケーション能力を高めるために必要であり、幼い時期から本に親しむことで、様々なことを学ぶことができ、心豊かに成長していく。

そのため、教育指導課では、「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、小中学校での、読書週間や朝の読書の推進を図るとともに、全校に配置された学校図書館司書を中心に、市立図書館や地域のボランティア等と連携しながら、読み聞かせ、本の選書等の児童生徒のサポートや環境整備を図るなど子どもたちの読書活動の推進を図る。

【平成 28 年度の主な取組み】図書館

1. 第3次子ども読書活動推進計画の推進

平成28年4月からスタートする「第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、学校、幼稚園、保育所、認定子ども園、保健センター、子ども・子育て総合センター「あいっく」や放課後児童会などに団体貸出を積極的に行うなど、子どもの読書環境に関わる各機関やボランティアと連携しながら、子どもたちに読書の楽しさを伝える環境づくりをより一層推進する。

【事業名：読書振興事業】

2. 地域や市民との連携による読書活動の推進

図書館と協働して読書推進を担う人材を育成するためにボランティア活動に参加するきっかけづくりとなる講座を開催するとともに、活動中のボランティア団体に対しても支援を行い、読書推進に関する本市の様々な取り組みにおいて、地域の人材の活用を図る。

【事業名：図書館ボランティア活動推進事業】

3. 図書館資料の活用・促進

生活に役立つ図書館講座、郷土の歴史や文化に触れる講座など各種講座を実施するとともに、図書館資料の出前貸出を実施する。

また、行政事務支援の一環として講座などのテーマに沿ったブックリストを作成・配布することで、市民が図書館資料を活用し、さらに学習を深める機会を充実する。

【事業名：図書館内サービス事業】

【平成 28 年度の主な取組み】教育指導課

1. 読書週間や朝の読書の推進

「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」に基づいて、各小中学校において、読書週間の設定や朝の読書の実施、読書ノートを活用し、子どもの読書活動の推進を図る。

【事業名：学校図書館事業】

2. 読書活動のサポートや環境整備の実施

学校図書館司書を全校に配置し、教員やボランティア、市立図書館等と連携し、児童生徒の読書活動を支援する環境整備に努める。

また、読み聞かせやおためし読書、本の選定サポートなどに取り組み、児童生徒の読書活動の充実を図る。

【事業名：国語力向上事業】

平成 28 年度の重点目標評価					
【担当：図書館】					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
【担当：教育指導課】					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度の取り組み及び成果					
【担当：図書館】					
□ 「河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境に関わる市内の各機関やボランティアとの連携を図った。また父親の読み聞かせへの参加を促進する講座や中学生・高校生に向けた考古学講座の開催などにも取り組んだ。					
□ 読み聞かせボランティアについては入門編からスキルアップ編、フォローアップ編と読み聞かせなどに関わる技術・知識を高める講座を実施するとともに、乳幼児から中学生までの年代に向けた各読書推進イベントに派遣し、子どもたちを取り巻く読書環境の充実に取り組んだ。また、音訳、対面朗読やさわる絵本を制作するボランティアと定期的に情報交換を行い、図書館利用に障がいのある方への読書環境の改善に努めた。					
□ 古文書や郷土の歴史・文化遺産に関する講座、暮らしに役立つ医療などの知識を伝える講座を主催したほか、富田林・大阪狭山の市立図書館と連携した講座を共催した。またキックスで開催されるくろまる塾の講座などに出前貸出を実施、併せて図書館内では講座関連図書などを展示することで市民の読書を促進し、図書館資料の活用を図った。					
【担当：教育指導課】					
□ 河内長野市第3次子ども読書活動推進計画」に基づいて、各小中学校において、読書週間の設定や朝の読書の実施、読書ノートを活用し、子どもの読書活動の推進を図った。その結果、本市の小中学生の読書量が増加し、市立小中学校の図書室の貸出冊数は全国平均を上回った。					
□ 学校図書館司書を全校に配置し、季節やイベントに合わせた図書の展示を実施したり、夏選書や先生のおすすめ本紹介、卒業選書を作成したりして、子どもたちが様々な本に興味・関心を持つよう環境整備を行った。さらに、教員やボランティアと協力して、学校図書室の利用時間拡大					

を図るなど、児童生徒の読書活動を支援する環境整備に努めた。また、市立図書館等と連携し、児童生徒が調べ学習等で必要としている本を集団貸出で借りてきたり、情報交換によって国語の学習内容や児童生徒のニーズを共有したりするなどして、教科や総合的な学習の時間等において、探求的な調べ学習を積極的に実施するとともにその発表を通じて、児童生徒の国語力の向上につなげることができた。

各事業の実績等

【担当：図書館】

1. 読書振興事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 講座や講演を通して市民に読書の楽しさを知ってもらう。
- ② 図書館になじみのない人にも足を運んでもらう機会をつくる。

(2) 平成 28 年度の実績

- ① 図書館歴史講座「知られざる河内長野の歴史」(全2回)(参加人数：延べ165人)・「古文書講座」(全6回)(参加人数：延べ364人)・文化遺産講座(全6回)(参加人数：延べ422人)

図書館で所蔵する市史編修の際に使用した郷土資料の古文書を活用しての古文書講座を開催した。その他、本市の歴史や貴重な文化遺産を学ぶ講座も開催した。

- ② 「生活に役立つ図書館講座」(計4回)(参加人数：延べ170人)

「乳がん診療の現況」、「人気ブロガーに学ぶ これまでできる！英会話」と題した講座を開催したほか、日本政策金融公庫の開催する創業・教育費に関するセミナーと連携して、関連図書の展示を行うなど、生活に役立つ情報を提供した。

- ③ 「三市図書館連携講座」(全3回)(参加人数：延べ91人)

広域相互利用協定を結ぶ富田林市立金剛図書館・大阪狭山市立図書館と今後の連携・利用促進を図るため、「すこやかに生きる」をテーマに野菜づくりや身近な自然を発見したり、利用する講座を共催した。

- ④ 子ども読書の日「おはなしウォッチング」・読書週間「おはなしウォッチング」(参加人数：延べ109人)

「おはなしのへや」を外から見えるようにして子どもも大人もおはなしなどを楽しんだ。

- ⑤ 夏休み子ども科学教室「小さな生き物の行動のなぜ？」(全1回)(参加人数：26人)

科学への興味と読書意欲の増進を図るため、夏休みに科学教室を実施した。

- ⑥ 「めざせ！図書館マスター」(4回開催)・「図書館探検ブックにチャレンジ！」(配布冊数：500冊)本の探し方の基礎を身につけ、図書館での調べ物をする時のコツや楽しさを学ぶイベントを開催した。

- ⑦ 「えほんのひろば」

三日市幼稚園のほか、市内全小学校と2中学校にも出張して絵本の魅力を伝えた。

- ⑧ 「赤ちゃんタイム」・「こくじらひろば」・「読みメン応援！！父と子のえほんのひろば」

幼児への読書推進事業として、親と子のふれあいや図書館デビューとなる「赤ちゃんタイム」、親子で気兼ねなく乳幼児向け絵本を広げて楽しむことができる「こくじらひろば」を

実施するとともに、父親による子どもへの読み聞かせ参加促進に向けた講座を大阪府教育委員会や「あいっく」と共催し、子どもの成長段階に合わせた読書体験の場の創出を進めた。

⑨ 「読書日記」の作成と配布

利用者が自身の読書記録を付けることによる読書意欲の向上を図ることを目的に「読書日記」を作成し、本図書館や各公民館図書室で配布した。

2. 図書館ボランティア活動推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① ボランティアのスキルアップ
- ② おはなし会、対面朗読などの充実を図る。
- ③ さわる絵本や録音図書等の資料を増やす。

(2) 平成 28 年度の実績

① 対面朗読の実施

視覚障がい者等に希望の資料を朗読する対面朗読サービスを実施し、延べ48回の利用があった。

② さわる絵本・布の絵本の制作

視覚等に障がいのある方でも楽しめる布の絵本をボランティアの協力により、2タイトル制作した。また、さわる絵本を自由にさわって楽しむことができるイベントも2回開催した。

③ 「読み聞かせボランティア講座」(全5回、ボランティアとの協働事業)(参加人数：延べ76人)

④ スキルアップ講座「世界のわらべうたにみる子どものコスモロジー」(全3回)(参加人数：延べ85人)

⑤ フォローアップ講座「絵本をもっと深く楽しもう」(全1回)(参加人数：31人)

児童書に関する知識、選び方、読み聞かせの技術・知識などを学んだ。

⑥ おはなし会の開催(全82回)(参加人数：586人 参加ボランティア：延べ167人)

ボランティアとの協働でおはなし会を開催し、おはなしや読み聞かせ、わらべうた等を楽しんだ。

⑦ 「ようこそえほんといっしょ」事業を開催(全18回)(派遣ボランティア 延べ33人)

市乳幼児健診センターで実施される4か月児健康診査の会場で、保護者や乳幼児を対象に読み聞かせの実演などを行った。

⑧ 夏休み高校生ボランティア

本の配架や整理と、傷んだ本の修理などを行う高校生ボランティアを募集した。5人の参加があった。

3. 図書館内サービス事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 利用者の満足度を高めること。
- ② 図書館の利用を促進すること。

(2) 平成 28 年度の実績

① 図書館内での展示

多様なテーマの展示をのべ 87 回実施した。

② 出前貸出の実施

毎回 50～150 冊程度図書館資料から用意し、図書館外での講座会場にて来場者に貸出を行う出前貸出はのべ 51 回、合計 521 冊の貸出があった。

【担当：教育指導課】

1. 学校教育推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

創意と活力に満ちた特色ある学校園づくりに寄与し、子どもたちの心身ともに健やかな成長を図る。

(2) 平成 28 年度の実績

① 国語力向上事業

(ア) 学校図書館司書

市立小中学校の司書教諭と連携し、貸出業務のほか、読み聞かせ、調べ学習(学習資料の活用)等の図書活動の補助をする学校図書館司書(10 人)を市立全小中学校に配置し、児童生徒の読書活動を推進した。

(イ) 言葉きらめき祭

言葉の美しさや表現の多様性に触れたり、自分の考えや気持ちを適切に表現したりすると同時に、郷土に対して目を向け、大切に思う気持ちを持つ子どもを育成するため、市内全域で子どもたちの豊かな言葉の力を育成する機会として「言葉きらめき祭」を開催(期日：平成 28 年 9 月 17 日 テーマ：心をことばに～伝えたい気持ち～ 自分の言葉で伝え合おう 発表者数：48 組 69 人)した。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

【担当：図書館】

- ☐ 本市の将来を担っていく子どもたちの読書活動は重要であり、河内長野市第 3 次子ども読書活動推進計画に基づき図書館・小中学校・地域ごとに設定した数値目標達成に向け、より効果的な取り組みを推進していく。
- ☐ 多様な利用者に読書に親しんでもらうには、ボランティアとの協働は欠かせないものであることから、情報の提供やスキルアップの場の提供を進めるとともに、イベントなどでの協働により一層取り組む。
- ☐ 資料展示や出前貸出の P R を積極的に行い、図書館資料の一層の活用を図る。

【担当：教育指導課】

- ☐ 河内長野市第 3 次子ども読書活動推進計画に基づいて、各小中学校において、読書時間の増加に向けて、朝の読書の実施や読書ノートの活用等、さらに子どもの読書活動の推進を図る。
- ☐ 学校図書館司書を継続して全校に配置し、季節やイベントに合わせた図書の展示を実施したり、

夏選書や先生のおすすめ本紹介、卒業選書を作成したりして、子どもたちが様々な本に興味・関心を持つよう環境整備を行う必要がある。

- 司書教諭や教員、ボランティアと協力して、学校図書室の利用時間拡大を図るなど、児童生徒の読書活動を支援する環境整備に努める。

重点目標 27 図書館や公民館図書室の充実

担当：図書館

地域や市民の多様な課題を解決する地域の情報拠点としての役割が、今、公共図書館に求められている。そのためには課題解決に役立つ適切な資料を整備するとともに、インターネットを併用した情報収集ができる環境の整備や ICT を活用した情報提供や情報発信を積極的に行う必要がある。

また、生涯にわたって学ぶことができる環境を整えるには、公民館図書室や自動車文庫の資料整備なども欠かせない。高齢者や障がい者にも開かれた図書館をめざし、今後とも、さらなる利便性の向上と一層の利用機会の拡大や読書環境の充実など、課題解決型の図書館としての役割を認識し、環境整備の取組みを進める。

【平成 28 年度の主な取組み】

1. 課題解決型図書館に対応した情報発信や資料提供

本市の各地域や各世代の市民が直面する日常の課題の解決につなげるため、子育て、医療・健康、福祉やビジネスなどに関係する資料の充実を図るとともに、市民から寄せられたレファレンス（※）事例をデータベース化し、ホームページ等で公開するなど ICT を活用した情報発信に取り組む。

また、高齢者や障がい者に向けた大活字本や録音図書などの資料の整備や、後世に伝えていくべき貴重な郷土歴史資料の修復・保存・活用に取り組む。

【事業名：図書館内サービス事業】

2. 公民館図書室・自動車文庫の資料整備など読書環境の拡充

市内のあらゆる場所で等しく図書館サービスを提供できるよう、図書館、公民館図書室や自動車文庫との間で、バランスのとれた蔵書構成となるよう整備を進める。

【事業名：公民館ネットワーク事業、自動車文庫事業】

3. 高度情報化に合わせた図書館サービスの充実

現代社会において情報収集にインターネットは欠かせないものとなっている。情報収集の拠点である図書館においても、市民が図書館資料とインターネットを利用して情報を入手できるように、図書館内に Wi-Fi スポットを設置し、インターネット接続環境を提供する。

【事業名：図書館内サービス事業、図書館管理運営事業】

※ レファレンス：必要とする資料や図書に関する情報などを提供するサービス

平成 28 年度の重点目標評価					
妥当性	A	効率性	A	有効性	A
平成 28 年度の取り組み及び成果					
☐ レファレンスの事例公開件数は累計 58 件、データベースはのべ 290 件の利用があった。また、6 月から図書館内に利便性とセキュリティを兼ね備えた Wi-Fi スポットを設置し、インターネットの利用環境を整えた。電算システムを活用して月々のメールマガジンの発行やホームページ上において館内で行った展示のリスト公開に努めたほか、キックスのホームページ上における					

ブログを通じての情報発信にも取り組み、16万件を超える予約・リクエストの申し込みがあった。この他、障がい者の読書環境の向上に向け、対面朗読の実施、録音図書の製作・他館借用を積極的に行った。

- 図書館の基本的運営方針に基づいた図書館事業の自己点検・評価を行った。また図書館協議会から概ね目標を達成しているとの総評を得たほか、図書館運営についてのアンケートも実施した。
- 劣化の進んだ貴重な郷土資料を修復したほか、講座や展示を通して郷土歴史資料の利活用に努めた。
- 図書館、公民館図書室、自動車文庫との間で、バランスのとれた蔵書構成となるよう整備をするとともに、集配送の利用促進に努め、市内各団体の資料配送の軽減を推進した。

各事業の実績等

1. 図書館管理運営事業【継続事業】

(1) 事業の目的

図書館サービス提供に必要な施設環境の維持と適切な電算システムの管理運営をすることで、快適な資料の利用環境のより一層の充実をめざす。

(2) 平成28年度の実績

① 適切な施設の管理運営

図書館施設が常に良好な状況で利用できるよう、施設管理業務や設備の保守点検管理業務などを行った。(書誌情報、資料装備、自動車文庫の運行、資料集配、資料の修復などの委託のほか、施設の管理業務を指定管理者に一括して委託し、継続して民間を活用している。)

② 図書館内におけるパソコン利用環境の整備

図書館内で図書館資料とパソコンを併用して作業ができる専用席を引き続き提供するとともに、6月から図書館内に設置したWi-Fiスポットでは337人の登録があった。

③ 快適な読書環境の維持

学生など自習者が多く来館するテスト期間の土・日曜日や夏休み期間に、館外に自習室を開設することで、館内の静かな読書環境の維持に努めた。

④ 適切な図書館電算システムの維持管理

図書館電算システムを活用した資料管理や利用者情報の適切な運用を行うとともに、情報発信を行い、図書館サービスのPRに努めた。

⑤ 特別整理期間における蔵書点検の実施

図書館資料の適正管理並びに迅速な提供を目的に所蔵資料と所蔵データの照合・点検を行う蔵書点検を6月に実施した。

⑥ 安全安心な読書環境づくり

危機管理マニュアルに従い、事故や火災などの発生時に職員が適切な対処が取れるよう努めた。また、年2回の自衛消防訓練を市民交流センターや公共職業安定所などと連携して実施するとともに、救命講習をアルバイト・嘱託員を含めた職員を対象に実施し、安全安心な読書環境づくりに努めた。

市民の大切な財産である資料を適切に管理するため、ブック・ディテクション・システム(※)の更新を行った。

⑦ 職員研修の実施

司書の資質ならびにサービス向上を目的に、大阪府立図書館等で実施される研修にも積極的に職員を派遣した。また、障害者差別解消法施行に伴い必要とされる知識の習得・技能向上に向けた内部研修を実施した。

⑧ 図書館事業評価の実施

平成26年3月に策定の「河内長野市立図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針」に基づき、図書館事業の自己点検・評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価を実施した。同協議会から事業計画に基づき設定した目標を概ね達成しているとの評価を得た。(図書館ホームページ掲載)

⑨ 図書館運営についてのアンケートを実施し、資料の充実、開館日数、職員の対応等について高い満足度が示された。

※ ブック・ディテクション・システム：貸出処理をしていない図書を持ったまま出入口に設置されたゲートを通ると警報音が鳴るシステム。

2. 図書館内サービス事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 利用者の満足度を高めること。
- ② 図書館の利用を促進すること。

(2) 平成28年度の実績

読書推進の役割に加えて、住民の課題解決と地域の活性化につながる機能の整備を進めるため、法情報や新聞記事検索などのオンラインデータベースの提供、本図書館で蓄積されてきた図書館資料などを用いての調査相談事例のホームページによる一部公開などを行った。また、除籍した図書館資料の一部を市内コミュニティセンターや公園緑化協会へ提供した。墨字資料の利用や来館が困難な方へのサービスの充実に努めるとともに、点字録音図書コーナーの一部に高齢者向き紙芝居や大活字本を充実させた「いきいき健康コーナー」を設置した。

① 貸出

個人貸出(自動車文庫の貸出点数を含む)は972,144点(内訳は一般書642,514点、児童書232,190点、視聴覚資料27,377点、雑誌65,944点、録音図書4,119点)、団体貸出は25,434点(自動車文庫・公民館図書室での貸出含む)であった。

② 図書館開館日数・入館者数

図書館は332日開館(1月の特別開館日を含む)し、474,323人の入館者があった。

③ 登録者数(公民館図書室・自動車文庫での登録を含む)

項 目	新 規	総 数
男 性	1, 9 3 8人	1 5, 6 4 2人
女 性	3, 0 4 8人	2 3, 5 2 3人
計	4, 9 8 6人	3 9, 1 6 5人

④ 資料数 4 1 5, 3 1 3点 (図書資料・視聴覚資料・録音図書タイトル数を含む)

⑤ 複写サービス 著作権法に基づく図書館資料の複写サービスを行った。

モノクロ 3 1, 0 6 2枚 カラー 6, 4 3 0枚

⑥ 予約・リクエストサービス

予約・リクエストサービスに対応した件数は1 6 9, 3 2 3件 (Web予約1 0 7, 3 8 8件含む)。自館での対応だけでなく府立図書館や近隣の図書館などから延べ9, 4 0 7冊の図書を借り受けて資料提供に努めた。

⑦ 障がい者サービス

ボランティアによる対面朗読、点字・録音図書の製作のほか、1, 5 0 6点の郵送貸出を行った。

⑧ 調査相談 (レファレンス) サービス

延べ1, 1 7 1件の調査相談があった。

⑨ 墨字資料を利用するのが困難な方に向けたサービスの充実

さわる絵本や布の絵本に加えてマルチメディアデジター (※) の紹介を行うイベントを開催。知的障がい者へのサービスを研究している大和大学と連携し、同サービスの向上に取り組んだ。また、リーディングトラッカーをカウンターに設置し、点字録音図書コーナーの拡大鏡も更新するなど、一層利用しやすい環境の整備に努めた。

※ マルチメディアデジター：パソコン等を使い、視覚障がい者や聴覚障がい者等様々な人が利用できるデジタル図書。

3. 公民館ネットワーク事業【継続事業】

(1) 事業の目的

- ① 市内どこでも本の予約・貸出・返却ができること。
- ② 図書館システムとしてバランスのとれた蔵書をつくること。

(2) 平成 28 年度の実績

① 図書館と公民館図書室との相互貸借状況

市内のあらゆる場所で等しく図書館サービスを利用できるよう、公民館図書室とのネットワークの充実を図り、バランスのとれた蔵書構成になるよう資料の整備を行った。

図書館と公民館との相互貸借状況

(単位：冊)

	公民館	千代田	川上	天見	加賀田	三日市	南花台	高向	天野	計
図書館	公民館へ	8, 846	3, 207	1, 926	4, 086	6, 950	13, 053	1, 982	1, 047	41, 097
	図書館へ	863	421	289	490	684	982	311	316	4, 356
計		9, 709	3, 628	2, 215	4, 576	7, 634	14, 035	2, 293	1, 363	45, 453

公民館図書室蔵書冊数

一般書蔵書冊数	児童書蔵書冊数
30,558	31,162

② 団体貸出での集配送の実績

市内各地域での読書機会の拡大を図るため、放課後児童会、幼稚園、保育所、認定子ども園、小学校、中学校のほか福祉施設、地域団体等への集配送サービスを行い、貸出利用を促進した。

	配送件数	配送冊数	返送件数	返送冊数	合計件数	合計冊数
小学校	82	3,344	64	3,869	146	7,213
中学校	12	342	11	352	23	694
放課後児童会	137	6,735	119	5,865	256	12,600
幼稚園・保育所	4	303	4	370	8	673

※放課後児童会への夏休みおたのしみパック（定期貸出）及びえほんのひろばでの貸出を除く。

4. 自動車文庫事業【継続事業】

(1) 事業の目的

図書館・公民館図書室の利用が困難な地域住民に、身近な図書館サービスを提供する。

(2) 平成 28 年度の実績

市内のあらゆる場所で等しく図書館サービスを利用できるよう、市内に 23 箇所のステーションを設け、自動車文庫による巡回を行った。

① 自動車文庫利用の利便性向上への取り組み

自動車文庫での巡回の際には、資料の貸出・返却の受付のほか、予約・リクエスト申込の受付や、巡回用ノートパソコンを利用した蔵書検索も行い、利用者への速やかな図書館資料情報の提供を行った。また、自動車文庫の蔵書については、利用者層を考慮しながら適切な蔵書の構築を図った。

② 自動車文庫利用促進への取り組み

自動車文庫利用促進のため、ステーションの近隣自治会にPRチラシを送付した。

自動車文庫蔵書冊数

一般書蔵書冊数	児童書蔵書冊数
8,702冊	9,701冊

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

☐ 紙資料と電子媒体の活用により課題解決型図書館として、より市民に身近で親しみやすく、さ

らに地域コミュニティの核としての役割を果たしていくことをめざす。

- 自動貸出機の導入、利用実態に応じた開館日の検討を行い、職員配置を見直すことで限られた人的資源の効率的な配置を進め、図書館サービスの一層の充実をめざす。
- 「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」に基づき、経済的で快適な読書環境の整備を目的に図書館閲覧室内照明ＬＥＤ化の市中長期計画への計上を行うとともに、地域コミュニティの創出を目的に視聴覚コーナーの改装について検討する。
- 市史編纂のため収集された資料を含む郷土歴史資料の保存活用のため、①収蔵資料管理システムの更新、②資料の修復、③デジタル化された資料のホームページ上への公開を年次的・計画的に進める。
- 障害者差別解消法に対応した図書館利用に障がいのある方へのサービスの充実を図る。
- 次期図書館電算システムの検討とスムーズな導入を行い、快適な図書館利用を実現する。